

平成29年度事業報告

社会福祉法人 凌 友 会

目次

1 凌友会（全体）

社会福祉事業

- 2 ケアハウスはがくれの郷
- 3 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）
- 4 短期入所生活介護（ショートステイ）
- 5 介護予防短期入所生活介護
- 6 通所介護（デイサービス）
- 7 介護予防通所介護
- 8 地域密着型介護老人福祉施設
- 9 ユニット型短期入所生活介護
- 10 ユニット型介護予防短期入所生活介護
- 11 認知症対応型通所介護
- 12 介護予防認知症対応型通所介護
- 13 きんりゅう通所介護
- 14 きんりゅう介護予防通所介護
- 15 訪問介護
- 16 介護予防訪問介護
- 17 居宅介護（障がい者）
- 18 障がい者移動支援
- 19 生活援助員派遣（シルバーハウジング）

公益事業

- 20 佐賀市金泉地域包括支援センター
- 21 指定介護予防支援
- 22 ケアマネジメントサービス（居宅介護）
- 23 訪問入浴
- 24 身体障がい者訪問入浴サービス
- 25 在宅介護支援センター

1 社会福祉法人凌友会(全体)事業報告

社会福祉法人凌友会

◎平成29年度法人経営の状況

(1) 評議員会

- ① 評議員数 7名
- ② 開催状況
平成29年6月20日 平成29年度定時評議員会
決議事項 ①H28事業報告 ②H28決算認定 ③役員等報酬基準
④役員選任
出席者 評議員7名、理事6名、監事1名

(2) 理事会

- ① 理事数 6名
- ② 開催状況
 - ・平成29年5月30日 第1回理事会
決議事項 ①H28事業報告 ②H27決算報告 ③給与規程の一部改正
④非正規職員の給与に関する規程の一部改正 ⑤H29各会計
補正予算 ⑥役員等報酬基準 ⑦役員候補者選定 ⑧定時評
議員会について
出席者 理事6名、監事1名
 - ・平成29年6月20日 第2回理事会
決議事項 ①理事長の選定
出席者 理事5名、監事2名
 - ・平成29年9月5日 第3回理事会
決議事項 ①業務執行状況報告 ②H29各会計補正予算 ③入苑者預か
り金残高報告
出席者 理事6名、監事2名
 - ・平成29年12月7日 第4回理事会
決議事項 ①業務執行状況報告 ②理事長専決規程の一部改正③非正規
職員の給与に関する規程の一部改正 ④育児・介護休業等に
関する規則の一部改正
出席者 理事5名、監事2名
 - ・平成30年3月20日 第5回理事会
決議事項 ①業務執行状況報告 ②H29各会計補正予算 ③H30事業
計画 ④H30各会計当初予算 ⑤職員就業規則の一部改正
⑥非正規職員の就業規則の一部改正 ⑦組織規程の一部改正
出席者 理事5名、監事1名

(3) 監事監査

決算監査 平成 29 年 5 月 19 日 田村監事

業務監査 平成 29 年 12 月 1 日、平成 30 年 3 月 8 日 田中監事

(4) 職員の状況

正規職員 106 名 非正規職員 91 名 (平成 30 年 3 月 31 日現在)

(参考)

正規職員 105 名 非正規職員 93 名 (平成 30 年 4 月 1 日現在)

※正規職員の資格保有状況 (平成 30 年 4 月 1 日現在)

医師 1、社会福祉士 6、介護福祉士 61、保健師 3、看護師 7、准看護師
2、介護支援専門員 18、管理栄養士 2、栄養士 2、調理師 5、作業療法士
2

◎平成 29 年度事業計画「重点目標」の反省と考察

①「高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる」社会の実現を目指し、引き続き「地域包括ケア」の推進を図る。

利用者のニーズに合わせた①医療との連携強化、②介護サービスの充実強化、③介護予防の推進、④多様な生活支援サービスの確保や権利擁護等、⑤高齢者のためのバリアフリーの住まいの確保などの取り組みが「地域包括ケア」の実現のために必要とされており、当法人においても、入院、退院、在宅復帰を通じて、切れ目なくサービスの提供を行うよう、事業運営に取り組んでいる。引き続き「地域包括ケア」の実現に向け、取り組んでいきたい。

② 社会貢献活動を積極的に行い、地域福祉の向上に努める。

地域住民の認知症や介護に対する理解を深めるため、平成 29 年度は各地において 5 回の「桂寿苑一座」の公演を行った。また、きんりゅうケアセンターで毎月実施している「歌声喫茶」は、毎回コンスタントに 60 名前後の参加者を得ており、盛況に開催を続けている。さらに平成 28 年 6 月から、毎月第 4 日曜日に健康づくりと地域住民のふれあいの場として、きんりゅうケアセンター桂寿苑内のデイセンターで開催している「あいあい cafe」もすっかり定着し、毎回多くの参加者を得ている。

デイサービスやケアハウスで実施している「ふまねっと運動」については、高齢者の機能の回復に優れた効果が見られている。また、一般高齢者の介護予防の取り組みとして行っている「ふまねっと教室」については、参加者の将来の桂寿苑事業所利用につなげるよう活動を継続している。

また、久保泉、きんりゅうとも介護・看護・医療系学生の実習施設として、毎年、多くの実習生を受け入れている。今後も引き続き、地域福祉の向上に努めていきたい。

- ③ 利用者の確保による経営の安定を図るとともに、必要な職員の確保と研修により、職員の資質の向上を図り、長期的な視点に立ちサービスの質の向上を目指す。

前年度に引き続き、全事業所において利用者増に向けて取り組みを行ったが、平成29年度前半は、久保泉のデイサービス、短期入所、きんりゅうの認知症対応型通所介護を中心に利用者が低迷し減収が続いたが、年度後半になって回復の兆しが見えている。また、収入が落ち込んだことから、3月に支払う特別賞与については介護職員処遇改善加算の支給対象者のみとし、支出の抑制を図った。今後も継続して利用者増に向けての取り組みを継続し、経営の安定に向けて努力していく。

- ④ 職員一人ひとりの個性を尊重し、規律ある風通しがよく働きやすい職場づくりを進める。

全職員を対象に職員アンケートを実施し、業務や職場環境の改善についての貴重な意見を収集した。アンケートで寄せられた意見については、改善等を行う必要があるものについては対応を行い、改善等を行う必要がないものについてはその理由を記載し、全職員に周知している。

また、職員のメンタルヘルス相談窓口を設けるとともに社会保険労務士による面談を実施し、職員が抱える悩みや心配ごとの解決に向けた取り組みを行っている。

- ⑤ 事業の永続性を図る観点から、計画的な施設の営繕と設備の更新を進める。

ケアハウスはがくれの郷は建築後20年を経過し、屋上防水シートの劣化が進行していたことから、全面に渡って屋上防水シートを張り替えた。

また、特別養護老人ホーム桂寿苑の給湯ボイラーは老朽化が進み、故障の都度修理を行い運転を継続してきたが、取替部品の在庫もなくなり、いつ運転不能になってもおかしくない状況となったため、設置後20年を経過していたことから緊急に更新工事を行った。

その他の老朽化が進んでいる施設や設備については、その都度、状況を確認し、事業運営への影響が及ばないよう必要な改修を行ってきた。

社会福祉事業

2 ケアハウスはがくれの郷事業報告

ケアハウスはがくれの郷

平成29年度事業計画「重点目標」の反省と考察

① できる限り要介護状態とならないための生活支援・自立支援の提供

29年度もさまざまな行事やドライブ等を企画し、健康づくりや介護予防の動機づけを行った。外出行事ではマンネリ化を防ぐため、新しい目的地を計画したり、夏場に精をつけるという目的でうなぎ屋への外食を行うなど、生活の中で楽しみを持てるように工夫した。また、インフルエンザ等感染症流行期には外出を控えたが、佐賀大学医学部軽音楽部コンサートや地域の音楽サークルのコンサートなど、館内でも楽しめる行事を企画実施した。

また、定期的に一人ひとりの状況を見直し、5名の介護保険新規申請をはじめ必要な方に対してサービスの追加・調整・利用援助を図った。

今後も入居者の生の声を聴き、認知症の理解や介護予防の取り組みなどに継続して取り組んでいきたい。

② 計画的に施設建物や設備の修繕を行い、安全な生活の場を提供

11月6日から12月21日にかけて屋上防水工事を行った。施工業者とは何度も打合せを行い、入居者の生活への影響を最小限の支障で済むように計画し、工事中は入居者（特に騒音が大きい上階の方）に対し、小まめな声かけを行い、ストレス軽減を図った。

経年劣化等により修繕を要す箇所があるが、今後も入居者が安全な生活を送ることができるよう、安全第一の姿勢で建物や設備等の保守・点検・修理に努めていく。

③ 入居者・待機者確保による収入の堅持による経営の安定化

8月は定員50名に対し、49名の実員であった。これは前入居者の荷物出しの遅れ、修繕箇所が多く原状回復に時間を要したことが大きな要因である（9月以降満床）。

また入院者は実人数9名（前年比-3名）、延べ人数10名（同一-6名）と減少し

た。インフルエンザ罹患者も29年度はゼロであり、健康面での維持管理が入院者数の減少につながったと思われる。

待機者は常時5名程の待機者を確保しているが、入居の案内をした際に「まだ自宅で生活したい。」と断られるケースもあり、安心することなく今後も待機者確保に努めていきたい。

④ 地域との交流促進、貢献活動。

金立公民館サークル「はがくれフォトクラブ」の写真展開催や地域のサークル（“ティコランド”、“劇団一休”等）やフリースクール生徒の活動発表の場としてはがくれの郷を活用して頂いた。

また、久保泉グラウンドゴルフ大会に町内から唯一施設として参加したり、館内行事（はがくれの郷作品展、薩摩琵琶演奏会等）の際は地域への広報案内を通して、地域住民とのふれあいや交流を深めた。

ホームページではこのような行事や取り組みを積極的に公開し、広報誌（桂寿苑だより）とともにPRに活用した。

⑤ 職員の資質向上と風通しの良い働きやすい職場づくり。

ケアハウスミーティングや職員面接、職場巡視チェックリストの活用など様々な方法を用いて、職員一人ひとりの意見を吸いあげ風通しの良い職場づくりに努めた。

特に29年度は「仕事のオンオフができて、ストレスが軽減できる」をテーマに、朝礼の見直しと申し送り簿有効活用について取り組んだ。その結果、職員間の会話が増え、職員間の関係性でのミスは少なくなった。

今後は関係性の質が向上することで、前向きな意見や積極的な行動につながることを期待でき、各々が働きやすいと感じることができる職場づくりに努めていきたい。

また、外部研修への参加も積極的に行い（前年30件→35件に増）、職員の資質向上に努めた。

2. 入居者の状況

(1) 入居・退居の状況

・入居者の月別人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
男	11	11	11	11	10	10	9	10	11	11	11	10	126	前年比-10
女	39	39	39	39	39	40	41	40	39	39	39	40	473	前年比+9
計	50	50	50	50	49	50	50	50	50	50	50	50	599	前年比-1

・月別新規入居者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
男	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2	前年比-2
女	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	1	4	前年比-5
計	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	1	1	6	前年比-7

・月別退居者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
男	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	3	前年比±0
女	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	3	前年比-5
計	0	0	0	1	0	1	1	1	0	1	1	0	6	前年比-5

(2) 出身地別人数

平成30年3月31日現在（単位：人）

区分	佐賀県内								県外	合計	
	佐賀市（男：9 女：29）			嬉野市	唐津市	神埼市	吉野ヶ里町	基山町			
	金泉以外	金立	久保泉								
男	5	1	1	0	0	0	0	0	3	10	前年比-1
女	26	0	3	1	1	1	1	1	6	40	前年比+1
合計	31	1	4	1	1	1	1	1	9	50	前年比±0
(前年比)	±0	-1	-1	±0	±0	±0	±0	±0	±0	+2	

(3) 入居者の年齢

平成30年3月31日現在（単位：人・歳）

性別	人数	最高年齢	最低年齢	平均年齢	
男	10	99	67	80.4	前年比-1.0
女	40	96	73	85.8	前年比±0
計	50			84.7	前年比+1.1

(4) 入居者の入院状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
男	0	0	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	4	前年比+4
女	3	2	1	1	1	0	1	2	1	2	1	1	16	前年比-19
計	3	2	1	2	1	1	1	3	2	2	1	1	20	前年比-15

・入院実人数 男性：3名 女性：6名

・入院延べ人数 男性：3名 女性：7名

3. 介護保険サービス等利用実績

・入居者の介護サービス別利用状況

(単位：人)

	ショートステイ	デイサービス	デイケア	生き生きクラブ	訪問介護	訪問看護	訪問リハ	訪問介護 生活支援 (佐賀市委託)
4月	0	23	3	0	24	1	0	0
5月	0	23	3	0	24	1	0	0
6月	1	23	3	0	24	1	0	0
7月	2	23	3	0	24	1	0	0
8月	2	21	3	0	23	0	0	0
9月	2	20	3	0	23	0	0	0
10月	2	20	3	0	22	0	0	0
11月	1	20	3	0	22	0	0	0
12月	1	23	3	0	20	0	0	0
1月	1	22	3	0	18	0	0	0
2月	2	23	3	0	19	0	0	0
3月	1	23	3	0	19	0	0	0
計	15	264	36	0	262	4	0	0

(前年比) -5 +33 -1 ±0 -1 -2 ±0 ±0

(注) 掲載数は、実人員です。

・要介護度別利用者数

H30.3.31現在 (単位：人)

自立	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
20	7	12	9	2	0	0	0	50

(前年比)

+2 -1 +4 -4 ±0 -1 ±0 ±0 ±0

4. 事故及び苦情・要望

<事故・怪我> 2件

事故日	事故の概要	怪我の程度	受診・入院・手術の有無	保険適用
4月20日	居室で転倒（電化製品のコードに脚をとられる。）	左大腿骨頸部骨折	整形外科を受診し、骨折判明。すぐに総合病院に入院し、翌日に手術。5週間後に退院し、ケアハウスに戻る。	無
12月28日	外出先で転倒（コンビニの帰り道に道路で膝をついた。）	左脛骨高原骨折	年未年始のため、1月5日に整形外科を受診し、骨折判明。総合病院に入院し、手術を行う。約6週間後に退院し、ケアハウスに戻る。 (退院時、歩行器レンタル開始)	無

<苦情・要望> 0件

区分	内容	対応

5. 主な行事、管理運営及び研修

月	主要行事	管理運営	各種大会ならびに研修
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・開苑36周年記念式典 はがくれの郷21周年 ・期間限定喫茶 ・お花見 ・つつじドライブ(久留米市・13名) ・はがくれフォトクラブ写真展 	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房害虫駆除 ・循環ろ過装置点検 ・簡易専用水道検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・若楠育成委員会①
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの日(菖蒲湯) ・アートフェスドライブ(多久市・10名) ・NEWスポーツ体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防設備点検 ・空調機フィルター清掃 ・消防設備等の説明会 ・入居者健康診査(採血) ・エレベーター点検 ・電気設備点検 ・避難誘導訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回老施協総会
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・もらい風呂 ・七夕飾り付け ・宇宙科学館ドライブ(武雄市・8名) ・あそびフェスタ ・プロ野球観戦(福岡ドーム・5名) 	<ul style="list-style-type: none"> ・全館害虫駆除(厨房含む) ・定期清掃 (ワックス清掃、ガラス清掃) ・収入申告 提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・若楠育成委員会全体会
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・長光園音楽交流会 ・盆提灯作り ・盆踊り大会 ・うなぎドライブ(佐賀市・11名) ・介護予防教室(熱中症について) 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気設備点検 ・健康診査(胸部レントゲン) ・職員健康診断(採血、胸写) 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽費老人ホーム・ケアハウス 委員会① ・九社連職員研究大会(熊本県)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・すいとん作り ・ミニドライブ (ひょうたん島公園・7名) ・ふまねっと体力測定 	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房害虫駆除 ・空調機フィルター清掃 ・循環ろ過装置点検 ・エレベーター点検 ・グリストラップ清掃 ・厨房配管洗浄清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ・若楠育成委員会② ・佐賀県認知症キャラバンメイト 養成研修 ・ハートネットきんせん研修会① ・ふれあい事業部会① ・老施協ゲートボール・グランド ゴルフ大会事前説明会
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・薬博物館ドライブ(鳥栖市・12名) ・敬老の日記念式典 ・はがくれの郷 作品展 ・期間限定喫茶 ・おはぎ作り ・ダンス披露、オカリナ演奏 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気設備点検 ・換気扇清掃 ・貯水槽清掃 ・ボイラー点検 ・夜間想定避難誘導訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士実習指導者講習会 ・安全運転管理者講習 ・北部ブロック研修会 ・中堅職員研修会

10月	<ul style="list-style-type: none"> ・老施協グランドゴルフ大会（7名） ・佐賀城本丸歴史館ドライブ（佐賀市・9名） ・さんままつり ・薩摩琵琶演奏会 ・佐賀市長及び市議会議員選挙、衆議院議員選挙期日前投票 	<ul style="list-style-type: none"> ・全館害虫駆除(厨房含む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養士・調理員視察研修会 ・若楠育成委員会第6ブロック会議①
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀ハルーンフェスタ見物（6名） ・久保泉高齢者グランドゴルフ大会（7名） ・紅葉ドライブ（鹿島市・11名） ・館内グランドゴルフ大会 ・NEWスポーツ体験 	<ul style="list-style-type: none"> ・空調機フィルター清掃 ・エレベーター点検 ・電気設備点検 ・エレベーター定期検査 ・屋上防水全面改修工事 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアに携わる者のリハビリテーション研修会 ・介護認定調査員継続研修会 ・原子力防災に関する研修会 ・県老施協施設長研修会 ・若楠育成委員会③ ・ふれあい事業部会② ・老施協ゲートボール・グランドゴルフ反省会議
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・佐賀市民混声合唱団コンサート ・ナイトドライブ（県庁・11名） ・冬至(ゆず湯) ・ジャズコンサート ・餅つき 	<ul style="list-style-type: none"> ・厨房害虫駆除 ・循環ろ過装置点検 ・定期清掃（ワックス清掃、ガラス清掃） ・消防設備点検 ・浄化槽清掃（汚泥搬出） ・建築設備定期検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽費老人ホーム・ケアハウス委員会②及び施設長研修会 ・メンター制度導入支援研修① ・明るい職場づくり推進事業
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年祝賀式新年会 ・初詣（白鬚神社参拝・17名） ・久保泉町ほんげんぎょう（1名） 	<ul style="list-style-type: none"> ・電気設備点検 ・浄化槽法定検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンター制度導入支援研修②
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・フォンダンショコラ作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・空調機フィルター清掃 ・全館害虫駆除(厨房含む) ・5階浴室業者清掃 ・エレベーター点検 ・グリストラップ清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ・若楠育成委員会全体研修会 ・若楠育成委員会④ ・九社連施設長研修会（長崎県）
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ランチドライブ（佐賀市・9名） ・ぼたもち作り ・さが桜マラソン応援（13名） ・ひな祭りコンサート ・劇団一休訪問 ・お花見 	<ul style="list-style-type: none"> ・浴槽水水質検査 ・電気設備点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・軽費老人ホーム・ケアハウス委員会③ ・軽費老人ホーム・ケアハウス相談員・介護職員研修会 ・第2回老施協総会 ・ハートネットぎんせん研修会② ・若楠育成委員会第6ブロック会議②

<p>月 例 行 事</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 懇談会 • さくらの会 • Let's cook!! • お買い物 • サークル活動 (書道、生花、リズム体操、折り紙) • お抹茶の会 • ふまねっと運動(毎週) • 健康マージャン • アロママッサージ • 川柳同好会 	<ul style="list-style-type: none"> • 浄化槽保守点検(隔週) • メーター検針 	
<p>職 員 研 修</p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li style="width: 25%;">• 職員全体会議 <li style="width: 25%;">• 経営会議 <li style="width: 25%;">• 久保泉会議 <li style="width: 25%;">• 介護支援専門員ミーティング <li style="width: 25%;">• 各委員会ミーティング <li style="width: 25%;">• フードサービス課ミーティング <li style="width: 25%;">• ケアハウス勉強会 <li style="width: 25%;">• 衛生委員会 			

- 3 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設） 事業報告
- 4 短期入所生活介護（ショートステイ） 事業報告
- 5 介護予防短期入所生活介護事業報告

<1>特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

平成29年度事業計画「重点目標」の反省と考察（総括）

1、入苑者の安心・安全な生活を支えるケアへの取り組み

入苑者の重度化により、健康面の維持に対する取り組みの比重が大きくなっている。年間を通し、感染症予防・褥瘡予防・転倒等リスク回避に向けて、介護・医療・栄養等の多職種により朝礼・会議・文書にて個別の処遇や健康状態について常に共有するよう努めてきた。また、楽しみや張りのある生活を過ごして頂けるよう様々なボランティア活動の受け入れ、虫見物・バルーン見物等のドライブ行事等を企画してきた。次年度についても健康面、心身機能等をできるだけ長く維持される為の支援を継続すると同時に楽しみや喜びのある生活支援に取り組んでいく事が必要と考える。

2、職員の資質向上と働きやすい職場環境づくり

内部のミーティングや委員会活動での職員同士の活発な意見交換により、利用者や家族の立場になってサービス向上を実践してきた。認知症状をはじめ重介護度の利用者が増え、医療の必要性も増してきている事は明らかであり、看取りケアを意識したアセスメント力の向上、家族や医療機関等との密な連携を具体的な取り組みとして強化する必要がある。

3、安定的な施設経営への取り組み

入所者の退所に合わせ新規入苑者の調整を行うも有料老人ホーム、グループホーム等入所施設にて生活が安定され保留される事も多く、調整に時間が掛かっている。入所申込者への定期的な状況確認、介護老人保健施設や病院等への入所対象者情報の収集等に努める必要がある。短期入所においてはこれまで同様在宅ケアマネジャーとの密な連携、本人・家族の要望やニーズに出来るだけ柔軟で、緊急的な受け入れにも対応していく。

4、防災への取り組み

火災を想定した消火訓練及び避難誘導訓練を毎月実施。地域での土砂災害を想定し、同敷地内のケアハウスを活用した避難訓練、広域消防署・地元消防団・地域住民参加の夜間想定防災訓練を計画的に実施、また定期的に防災備品や非常食等をチェックし災害への準備を維持してきた。また、職員の緊急連絡網に一斉メールシステムの導入した事により、火災の際は職員同士の電話連絡よりも自動で迅速に状況を共有できている。

1、入苑者の男女別・要介護度（平成30年3月31日※（ ）は平成28年度の数値

区分	要介護度別						備考 平均要介護度
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	
男	1 (1)	0 (0)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	3.4 (3.3)
女	0 (0)	2 (8)	25 (18)	11 (13)	7 (5)	45 (44)	
計	1 (1)	2 (8)	28 (21)	12 (14)	7 (5)	50 (49)	

2、年齢別・性別の状況（平成30年3月31日）（単位：人・歳） ※（ ）は平成28年度の数値

年齢	65～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100以上	合計	平均年齢
男	1 (0)	1 (3)	0 (1)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	5 (5)	85.2 (82.1)
女	1 (0)	2 (2)	8 (9)	11 (9)	19 (23)	4 (1)	45 (44)	95.9 (91.2)
計	2 (0)	3 (5)	8 (10)	11 (9)	22 (24)	4 (1)	50 (49)	94.9 (90.1)
最高年齢	男性	92歳	女性	102歳				
最低年齢	男性	79歳	女性	78歳				

3、在所期間別の在在所者数（平成29年3月31日）（単位：人） ※（ ）は平成28年度の数値

区分	1年未満	1年以上 3年未満	3年以上 5年未満	5年以上 7年未満	7年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上
男	3 (1)	1 (2)	1 (1)	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (0)
女	13 (14)	15 (17)	10 (3)	2 (3)	0 (2)	2 (3)	3 (3)
合計	16 (15)	16 (19)	11 (4)	2 (4)	0 (2)	2 (3)	3 (3)

4、看取りを行った人 ※（ ）は平成28年度の数値

平成29年4月～平成30年3月末	16名 (17名)
------------------	-----------

5、入所申込み数及び平成29年現在の優先入所待機者数

平成29年4月～平成30年3月31日現在までの申込者	37
平成30年現在の優先待機者数	29

6、年間行事報告

	日にち	行事名	備考
H29	4/2 (日)	開苑36周年記念式典	
	4/24 (月)	職員演芸大会	
	5/5 (金)	子供の日会食	
	5/5～6	菖蒲湯	
	5/31 (水)	マンドリン演奏	
	6/1 (木)	蛸見物ドライブ	
	6/8 (木)	金曜会 三味線披露	
	7/7 (金)	七夕会食	
	7/20 (木)	アコーディオン、踊り披露	
	7/25 (火)	長光園との音楽交流会	
	7/29 (土)	盂蘭盆会法要・盆踊り大会	
	8/15 (火)	すいとん作り	
	9/2 (土)	夜間想定防災訓練	
	9/5 (火)	久保泉小学校3年生とのふれあい	
	9/7 (木)	佐賀市表敬訪問	
	9/9 (土)	職員演芸大会	
	9/17 (日)	第37回 敬老記念式典	
	11/2 (木)	バルーン見物	
	12/2 (土)	佐賀市混声合唱団（ウィンターコンサート）	
	12/12 (火)	セイコーミュージック演奏会	
	12/22～23	ゆず湯	
	12/23 (土)	入苑者忘年会	
12/28 (木)	餅つき		

H30	1/1 (月)	新年祝賀式	
	2/3 (土)	節分会食	
	3/3 (土)	ひな祭り会食	
	<<定例行事>> ・毎月 ; 心れ愛デイ誕生会、自主消防避難訓練、談話会 ・各月 ; 井手先生の音楽療法 ・ボランティア ; 傾聴ボランティア、ビハラの会		

7、願い事叶えたい券の活用実績

		目的	場所	職員の関わり	備考
H29	5/16	行きつけの美容室に行きたい	佐賀市内	送迎	9/26
	5/17	家族と食事をしたい	かにしげ	送迎	
	7/5	自宅の美容室で散髪したい	佐賀市内	送迎	12/5
	8/13	お盆を家族と一緒に過ごしたい	自宅	送迎	
	11/16	家族と食事をしたい	梅の花	送迎	
	12/10	ひ孫の結婚式に参加したい	佐賀市内	送迎、付添い	
	12/23	自宅で家族と過ごしたい	自宅	送迎	
	12/29	自宅で家族と過ごしたい	自宅	送迎	
H30	3/17	行きつけの美容室に行きたい	佐賀市内	送迎	
	3/25	誕生日を自宅で家族と過ごしたい	佐賀市内	送迎	

平成29年度 12件の利用

8、カエル/心プロジェクトの活動実績 (月1回の活動)

『改善したい等意見』	『改善内容』
○音楽リハビリの時に使う「鈴」が足りず、お渡しできない時があります。また、欠けた物もあり困っています。購入を検討して頂きたい。	○新しい鈴を必要分購入した。
○お粥を入れるお茶碗が丼物用で厚み、重みがあり、持って食べる事が難しいようです。出来れば軽くて持ちやすい器に変えて欲しい。	○厨房にてお年寄りでも持ちやすい軽い茶碗を購入した。
○これから益々暑くなり、車を駐車場に止めておくだけで車内がとても暑くなる為、公用車のフロントガラスに日よけを購入して欲しい。クーラーの節約にもなる。	○公用車の日よけを購入した。
○職員通用口よりお年寄りが外に出られようとする行動が時々見られる為、対策の検討が必要。	○職員通用口の場所を変更する。これまで通り、周りのお年寄りの様子を伺いながら職員は出入りを行い、離設を予防している。

9、避難誘導訓練 (土砂災害訓練) ・夜間想定防災訓練 ・原子力防災訓練 (単位:回)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
避難誘導訓練 (土砂災害訓練)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
夜間想定防災訓練						1						
原子力防災訓練												

10、久保泉交流会議

	日付	議題	参加者
第8回	6/13 (火)	「高齢者に多い疾患について」 講師；看護師 参加者との意見交換会	家族；25名 地域；5名
第9回	11/15 (水)	「お薬について」 講師；薬剤師 参加者との意見交換会	家族；14名 地域；9名

11、施設実習受け入れ

日程 (29年度)	学校名	人数
5月15、16、23日	佐賀県農業協同組合 新人研修	6名
6月5日～8月9日	北陵高等学校 生活文化科3年生介護実習Ⅱ 21日間	1名
6月7日	西九州大学 社会福祉援助技術実習指導Ⅰ 見学実習	17名
7月21日～28日	神埼清明高等学校2年生 介護実習Ⅰ 6日間	1名
7月24日～28日	北陵高等学校 生活文化科1年生介護実習Ⅰ 5日間	1名
10月12日	佐賀県労働者福祉協議会 介護職員初任者研修	3名
10月23日～27日	介護労働安定センター 実務者研修 5日間	2名
12月4日～13日	北陵高等学校 生活文化科1年生介護実習Ⅰ 7日間	1名
平成30年		
2月26日～28日	佐賀歯科衛生専門学校 介護実習	3名
3月6日～13日	佐賀歯科衛生専門学校 介護実習	3名

12、部署内会議

(単位：件)

	開催頻度	参加者	内容
生活福祉課会議	毎月	課長 副課長 係長 リーダー	施設内環境、介護全般、職員教育等の課題分析、改善、共有 等
ケアスタッフ会議	各月	全介護職員	委員会活動報告、法人全体の取り組み等情報共有 等
医務室会議	毎月	看護師	委員会活動報告、業務状況確認、利用者の健康管理状況確認 等
町会議 (4町)	各月	各町介護職員	入苑者・短期入所利用者の状況確認、ケアや取り組み等の情報共有 等

13、苦情

区分	内容
苦情	職員の対応について ショートステイを利用された利用者家族より、①帰りの荷物の中身が整理されていない ②帰りに膝掛けをしてもらえていなかった③連絡帳に排泄の記入がなかった 膝掛けは普段から使用してもらえていないのではないかと、排便が無かったら送迎時に口頭でも伝えて欲しかったと不信感を持たれた。
苦情	職員の対応について 病院受診に家族が付き添われた際、施設から先生への情報提供の内容に対し、家族の行為により健康管理が出来ていないという内容に捉えられ、「健康面の管理ができていないのは施設なのに、なぜ家族が疑われないといけないのか」とご立腹された。

14、ホームページ更新件数（単位：回）

※（ ）は平成28年度の数値

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
行事	5 (0)	6 (3)	3 (0)	4 (6)	0 (4)	5 (0)	2 (4)	4 (2)	4 (0)	5 (3)	2 (2)	3 (3)	42 (27)
短期入所 空き情報	2 (1)	1 (0)	0 (1)	0 (0)	2 (1)	3 (0)	2 (1)	3 (1)	3 (1)	3 (1)	2 (1)	3 (0)	24 (8)

<2>ショートステイ（短期入所生活介護）

1、平成28年度短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護利用実績（単位：延べ人数）

※（ ）は平成28年度の数値

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
4月	0 (0)	2 (7)	147 (113)	137 (170)	124 (270)	42 (96)	69 (29)
5月	0 (0)	12 (7)	196 (110)	139 (147)	116 (276)	43 (86)	61 (32)
6月	0 (0)	3 (3)	192 (113)	142 (137)	135 (281)	42 (60)	68 (51)
7月	0 (0)	41 (0)	171 (89)	135 (163)	181 (350)	50 (77)	37 (52)
8月	0 (0)	10 (31)	202 (65)	139 (180)	185 (304)	55 (73)	63 (52)
9月	0 (0)	2 (15)	169 (86)	137 (115)	151 (307)	24 (43)	59 (55)
10月	0 (0)	4 (6)	186 (134)	139 (98)	155 (288)	48 (35)	84 (42)
11月	0 (0)	20 (0)	196 (122)	142 (131)	139 (242)	42 (26)	76 (25)
12月	3 (0)	16 (22)	220 (119)	141 (155)	142 (218)	23 (35)	39 (36)
1月	0 (1)	13 (0)	215 (169)	157 (140)	139 (235)	48 (35)	0 (33)
2月	19 (0)	5 (0)	219 (141)	169 (131)	107 (248)	35 (16)	0 (36)
3月	8 (5)	43 (0)	195 (163)	141 (138)	169 (246)	17 (15)	0 (30)

2、1日平均利用者数

（単位：人数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
H28	23	21	22	24	23	21	19	18	19	20	20	19
H29	17	18	19	20	21	18	20	21	19	18	20	18

6 通所介護（デイサービス）事業報告

7 介護予防・日常生活支援総合事業第1号通所事業 （介護予防通所介護サービス相当）

デイサービスセンター桂寿苑

平成29年度事業計画「重点目標」の反省と考察

① 利用者満足度向上のための取り組み

利用者アンケート結果をもとに、利用者がデイに求める要望をプログラム等へ具体的に取り入れることで、利用者がより楽しみ活気ある活動を提供することができた。また新しく選択できるプログラムの実施や継続して一つの物を作り続ける活動などは利用者の楽しみと目標達成に向けた取り組みとなり意欲の向上を図ることができた。今後は利用者のさらなる意欲向上ができるように、新しいプログラムの開発を進めていきたい。

② 職員の資質向上のための取り組み

定期的な内部研修の実施、外部研修への参加、ミーティングを活用して業務改善についての検討を実施し、知識面、業務面についてのスキルアップを図った。また、アンケート等の意見・要望に対して、職員全体で取り組み検討を行い、実際に取り入れることができた。また、カエル会議を取り入れ、課内における課題や利用者に関する問題点を改善するように努めた。

今後の課題として、介護保険制度や各種加算を取得していくために必要な項目を把握し、何をすべきか理解できる環境を作っていきたい。

③ 利用者・家族・地域住民との交流やネットワーク構築への取り組み

神埼・千代田地区住民に対するふまねっと運動を通して、地域住民に対する介護予防を推進することができた。時々デイサービスのプログラムをミックスしたサービス提供を行うことで将来的な桂寿苑との関わりをもてるような取り組みを実施した。また、久保泉交流会議を通して利用者家族、地域住民との意見交換を図り、サービス改善とより良いサービス提供に努めた。

今後の課題として、地域包括ケア体制を構築する、いち社会資源として、地域包括支援センターとの連携や更なる地域との交流ができる場に積極的に参加を行い、ネットワークの構築及び展開を図りたい。

④ 職員が働きやすい職場づくりへの取り組み

職員面接や職場巡視を通して職員から意見を吸い上げ、その都度業務改善を図り、働きやすい職場づくり、意見が言いやすい風通しの良い職場づくりに努め

た。また、業務効率改善を目的に各種業務を誰でもできるようにする為に業務把握状況の分析等を行った。

今後も継続して、職員間での業務に対する感謝やねぎらいをしっかりと声に出して、職員のやる気やモチベーションアップを図る。また定期的な面接の実施、相談や話しやすい環境を整えることで、職員間のコミュニケーションの充実、メンタルヘルスの充実を図り、明るく働きやすい職場づくりの推進に努めたい。

⑥ 安定した運営を目指した取り組み

経営面、運営面についての現状を常に把握し、目標を数値化することで全職員の意識統一と目指すべき方向性の一致を図り、経営面の安定を課内全体で取り組んだ。具体的には利用希望者の積極的な受け入れ、欠席理由の分析を通して、振り替え利用の促しや利用者の健康管理に努めた。ホームページの更新についても月3回以上を目標として実施した。また、金立事業所との定期的な会議の場を設け、相互の運営状況の把握、制度改正における運営方針の確認、経営改善に向けた情報交換等を実施した。支出面の削減では、時間外ゼロ目標を掲げて、それを実現するための取り組みを実践しほぼ達成することができた。

今後の利用者増の展開として広報活動による新規獲得を進めながら、現利用して頂いている方の回数増ができるよう、利用者、家族、ケアマネジャーとの密な連携と利用の促しに努めていきたい。また、新規問い合わせ、相談に対しては相談後のフォローや情報収集により力を入れ、スムーズな利用に繋がるように取り組んでいきたい。今後も目標を数値化することで達成のために具体的に何を取り組むかを職員全員が考えることができる仕組みを継続していきたい。

⑥ 総合事業と制度改正に向けた準備と対応に対する取り組み

介護保険制度改正に向けて、随時情報収集や広域連合等との連携を図ることで、必要な書類準備、利用者への説明と同意など、スムーズな制度移行ができるように準備を行った。介護保険改正も一部未実施の面もあるので、引き続き情報収集を行っていく。

1. 利用実績

別紙1のとおり

2. サービス振り返り状況

<転倒・怪我>・・・5件

日時	事故の種別・状況	怪我の程度	対応・受診等の有無	保険適用
29年4月	転倒（女性） 移動時に段差に躓き	左臀部の打ち身。	ご家族・ケアマネジャーへの謝罪。移動時は	無

	転倒。		手を添える対応	
29年8月	怪我（女性） 爪切り時、皮膚部分を誤って傷つけ出血あり。	左手薬指皮膚を傷つけ軽い出血あり。	ご家族・ケアマネジャーへの謝罪。付替え用絆創膏を提供。	無
29年10月	転倒（女性） 移動時に膝折れされ転倒。	右臀部打撲、右肘、右膝の1cm程度の擦過傷あり。	ご家族・ケアマネジャーへの謝罪。付替え用の絆創膏等を提供。移動時は腰に手を添える。	無
29年11月	転倒（女性） 自宅送迎時、足場の悪い状況で早足で移動され、足がもつれ転倒。	頭部と腰部の打ち身。赤み多少で痛みあり。	ご家族・ケアマネジャーへの謝罪。様子観察対応。その後は特に異常等はなし。	無
30年1月	転倒（男性） 帰り乗車時、手すりを握っていたが、職員が離れた際に転倒。	左臀部の打ち身。その他に大きな傷や赤みなし。	ご家族・ケアマネジャーへの謝罪。介助内容の変更を行い、常時付き添いに変更。	無

<車両事故>・・・6件

送迎時の車両事故（全て自損事故）が6件発生。後方確認不十分や内輪差の確認不十分等で発生。修理費等で経営面でも影響がでることを認識し、再発防止に努めます。

<物品返し忘れ等>・・・9件

利用者の物品等の返却忘れが9件発生。荷物担当など役割を決めているが、確認不足で発生している。担当者の意識を高めて再発防止に努めます。

<苦情・要望>・・・1件

区分	苦情内容
苦情	利用者アンケートより、デイスファアの破れ等の指摘あり。見た目や使用して不快感に感じにならないように、破れ部分に布等をあてて対応を実施。その旨をアンケート回答にて対応。

3. 年間行事と参加実績

別紙2のとおり

平成29年度通所介護・介護予防通所介護利用実績

年度 月	区分	一ヶ月間の 延べ利用者 (日)数	要介護度別の延べ利用者数(内訳)							当月の営業 日数	定員
			要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5		
昨年度 28年	4月	658	26	89	313	115	55	40	20	30	40
	5月	663	32	90	286	129	68	37	21	31	40
	6月	673	23	102	307	105	94	40	2	30	40
	7月	665	27	120	295	91	88	41	3	31	40
	8月	656	26	115	270	106	89	41	9	31	40
	9月	622	21	103	264	99	77	43	15	30	40
	10月	613	16	99	279	112	48	47	12	31	40
	11月	636	18	124	279	120	38	47	10	30	40
	12月	643	14	114	289	108	53	54	11	31	40
	1月	591	12	114	257	97	50	55	6	31	40
	2月	544	17	106	251	60	59	45	6	28	40
	3月	577	16	114	268	64	69	31	15	31	40
	合計	7,541	248	1,290	3,358	1,206	788	521	148	365	
平均	628	21	108	280	101	66	44	13	30		
今年度 29年	4月	537	9	94	237	84	71	34	8	25	40
	5月	607	16	101	279	103	68	31	9	27	40
	6月	574	18	94	255	96	77	29	5	26	40
	7月	583	13	89	261	99	80	28	13	26	40
	8月	600	15	102	258	99	84	31	11	27	40
	9月	578	21	109	237	106	67	29	9	26	40
	10月	567	22	108	227	86	96	28	0	26	40
	11月	555	30	113	211	76	96	29	0	26	40
	12月	567	27	119	213	67	100	29	12	26	40
	1月	551	26	117	226	69	86	14	13	27	40
	2月	503	25	122	200	61	69	14	12	24	40
	3月	550	29	128	223	73	68	16	13	27	40
	合計	6,772	251	1,296	2,827	1,019	962	312	105	313	
平均	564	21	108	236	85	80	26	9	26		

【平成29年度行事報告】

月	日	行事・ドライブ名	人数	日	手作りおやつ	日	ホームとの合同行事
4月	21日~22日 26日・27日	鯉のぼり買い物ドライブ	30名	4日・5日・13日 14日・17日・22日	うぐいす餅	2日 6日 24日	開苑記念式典 井手先生音楽療法 ふれ愛デイ
5月	8日・9日・13日	鯉のぼり買い物ドライブ		9日・17日・19日 22日・25日・27日	バナナケーキ	23日	しょうぶ湯 ふれ愛デイ
6月	15日~17日 19日~21日	紫陽花ドライブ	49名	7日・8日・12日 13日・24日・30日	どら焼き	23日	ふれ愛デイ
7月	29日・30日	ひまわりドライブ	13名	5日・10日・15日 18日・21日・27日	水ようかん	20日 25日	ふれ愛デイ 長光園との音楽交流会
8月	1日・2日・3日・7日・8日	ひまわりドライブ	31名	4日・10日・21日 23日26日 12日・14日 15日・16日	わらび餅 かき氷	18日 22日	ふれ愛デイ ビハーラの会
9月	4日~16日	そよかぜ館ドライブ	54名	20日・21日 23日・26日	おはぎ	9日 17日 25日	ふれ愛デイ 敬老の日式典 ビハーラの会
10月	9日~14日 16日~21日	佐賀市長・市議期日前投票 コスモスドライブ	19名 33名	9日・12日・20日 21日・23日・24日	プリン	23日 27日	ふれ愛デイ ビハーラの会
11月	20日~25日	紅葉ドライブ	49名	13日・15日・18日 21日・23日・24日	スイートポテト	14日	ふれ愛デイ
12月				23日・25日・26日	チーズケーキ	13日 22日 28日	ふれ愛デイ ゆず湯 餅つき
1月	1日	初詣ドライブ	5名	9日・15日・19日 13日・17日・25日	白玉ぜんざい きなこ餅	18日	ふれ愛デイ
2月				8日・10日・12日 14日・20日	ガトーショコラ	16日	ふれ愛デイ
3月	8日~14日 26日~31日	観梅ドライブ 桜ドライブ	43名 41名	17日・19日・20日 21日	おはぎ	15日 22日	ふれ愛デイ ビハーラの会

【隔月】

避難誘導訓練(6月・8月・10月・1月・3月)

29年度ふまねっと実施報告書

実施月	神埼北	神埼南・千代田	備考
4月	6名	20名	
5月	5名	25名	
6月	4名	19名	
7月	4名	18名	
8月	0名	12名	神埼北・利用者の方、1名入院・1名別のデイサービスを利用される為に8月より実施なし。
9月	0名	20名	
10月	0名	22名	
11月	0名	23名	
12月	0名	11名	
1月	0名	20名	
2月	0名	18名	
3月	0名	14名	神埼北・利用者の方1名永眠。他の施設利用の方1名今後利用無し。
合計	19名	222名	

8 地域密着型介護老人福祉施設 事業報告

きんりゅうケアセンター桂寿苑 介護老人福祉施設

平成29年度事業計画「重点目標」反省と考察（総括）

1、入苑者が安心して楽しく生活を送るためのユニット環境づくり。

担当者会議や地域密着型運営推進会議などから、入苑者やご家族からの要望等を 個別ケアに取り入れる事ができた。願い叶えたい券の利用については、ADLの低下に伴い 一部の利用のみとなってしまったため、今後は少しでも皆様に活用して行く事ができるようにして行きたい。

2、ご家族との信頼関係を密にする。

来苑されたご家族等へは細かな情報提供を行い、コミュニケーションを図って行く事ができた。体調変化や、終末期を迎えるに当たり主治医を含めたご家族とのカンファレンス等を早めに行う事で、ご家族の不安軽減につながったのではないかとと思われる。

3、認知症ケアの知識・技術向上への取り組み。

認知症ケアの知識や技術に関して認知症の方へのかかわりや声掛けが適切に出来ていたスタッフもいたが、不適切なスタッフもいた。生活福祉課としての勉強会や自己研修について十分とは言えなかったため、今後 知識・技術向上をめざし、外部研修や自己研修への参加へ取り組んでいきたい。

4、スタッフが継続就業するための働きやすい職場環境づくり。

今年度は、例年と比べ退職者が少なく、職員の安定がみられた。また、各ユニットごとのmtにおいてユニットリーダーが中心となり 問題点を話し合いを進める事ができたと思える（付箋会議）。また、気になるスタッフについては早めの面接などを行う事ができた。

5、利用者確保や定員管理による安定した施設経営・運営への取り組み。

入苑者の健康管理に努めてきたが、身体機能の低下や医療管理の増加に伴い、急な入院などで居室の空きが出てしまった。また、退所者が出た後の 入所に繋げていくまでに時間がかかり部屋の利用ができなかった。今後、部屋を空けることなく 継続的に利用者確保に努めていくため、待機者の整理をおこなって行く必要がある。

6、地域・社会貢献活動への参加。

地域行事や防災訓練などの参加で、地域住民とのコミュニケーションを図る事ができた。

1. 入所年間実績（きんりゅうケアセンター桂寿苑 介護老人福祉施設）

区分 年度 月		延べ人数					計
		要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	
28年度平均		0	26	237.7	298.3	46.4	608.3
29 年度	4月	0	0	210	330	60	600
	5月	0	0	217	341	62	620
	6月	0	0	210	330	60	600
	7月	0	0	217	341	62	620
	8月	0	0	207	341	62	610
	9月	0	0	210	300	90	600
	10月	0	0	186	341	93	620
	11月	0	0	180	300	108	588
	12月	0	0	169	321	124	614
	1月	0	0	155	341	124	620
	2月	0	0	140	308	112	560
	3月	0	0	155	326	112	593
	平均		0	0	188.0	326.7	89.1

2. 入居者の男女別・要介護度（平成30年3月31日現在）（単位：人）

区分	要介護度別						備考
	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計	平均要介護度
男	0	0	0	0	0	0	3.9
女	0	0	5	11	4	20	
計	0	0	5	11	4	20	

3. 年齢別・性別の状況（平成30年3月31日現在）（単位：人・歳）

年齢	70～74	75～79	80～84	85～89	90以上	合計	平均年齢
男	0	0	0	0	0	0	0
女	2	2	0	4	12	20	89.9
計	2	2	0	4	12	20	89.9

4. 最高年齢・最低年齢

最高年齢	男性	0	最低年齢	男性	0
	女性	102		女性	70

5. 看取りを行った数

平成29年4月～平成30年3月末	3 名
------------------	-----

6. 願い事かなえたい券利用（平成29年4月～平成30年3月）

年月日	場所、内容等	ユニット
5月8日	昼食・お買い物（ゆめタウン佐賀）	かつら
5月24日	ご家族と昼食（うなぎ料理）	かつら
5月9日	ぼたもちを食べたい（大和ジャスコ）	けやき
5月31日	お寺参りをしたい（自宅・円福寺）	けやき
7月5日	ご家族と昼食（中華料理）	けやき
8月13日	お盆帰省（ご自宅）	かつら
9月11日	ご家族とデザート（イオン大和）	かつら
1月2日	お正月帰省（ご自宅）	かつら
1月2日	お正月帰省（ご自宅）	かつら
合計	合計9：回	かつらユニット（6回）・けやきユニット（3回）

○平成28年度（14回）に比べ利用回数が少なかった。徐々に介護度が上がられ行ける方が限られてきた。

7. 感染症対策委員会の対策と会議

委員会の対策	入居者・職員の感染予防、健康管理 感染発生時の状況把握、蔓延防止の措置、発生者への対応、各事業者との連携、必要時行政への報告
感染症会議	新人研修 1 回 職員全体の研修 年2回（6月・11月実施） 委員会活動 毎月（12回実施） 現状報告及び予防について ※感染発生時、Drに相談対応

○今年度のインフルエンザは、通常春頃に発生するB型が早くから発生し、A型・B型と混在し風邪との区別が付きにくい状況であった。

8. 褥瘡予防対策委員会の対策と会議

委員会の対策	入居者・利用者の褥瘡予防 褥瘡ハイリスク者の管理、予防計画の管理、予防ケア計画の評価・助言、研修会・勉強会の企画・参加
会議	新人研修 1 回 職員全体の研修 年2回（8月・1月実施） 委員会活動 毎月（12回実施） 現状報告及び予防について ※久保泉施設との意見・情報交換

○褥瘡者に関し、同じ方が繰り返すことがあったがアセスメント・モニタリングを行い、治癒に向けての取り組みと予防に努めた。

9. 栄養マネジメント（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

栄養マネジメント実人数	211	栄養マネジメント延べ人数	6,248
-------------	-----	--------------	-------

10. 面会者数（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	1日平均
けやき	93	93	96	94	104	88	107	93	123	110	106	121	1,228	5.0名
かつら	53	70	46	50	52	56	56	47	47	45	43	48	613	月平均
計	146	163	142	144	156	144	163	140	170	155	149	169	1,841	153名

11. 地域密着サービス運営推進会議 回数・出席者（平成29年4月～平成30年3月）

	職員	ご家族	地域住民代表	学識経験者	行政	社会福祉協議会	友友会第三者委員会	内容
4月	9	6	0	0	3	1	0	・願い叶えたい券、行事報告 ・アンケート報告 ・利用料変更
6月	12	7	1	1	2	1	2	・願い叶えたい券、行事報告 ・厨房と食事について
8月	13	8	1	0	2	1	1	・願い叶えたい券、行事報告 ・脱水、熱中症予防について
10月	10	6	0	1	2	0	0	・願い叶えたい券、行事報告 ・防災への取り組みについて
12月	11	6	1	0	1	1	1	・願い叶えたい券、行事報告 ・身体拘束について
2月	11	7	1	1	2	0	1	・願い叶えたい券、行事報告 ・衛生委員会について

12. 認知症に関する苑内研修や苑外研修参加者・開催回数（平成29年4月～平成30年3月）

年月日	内容
平成29年10月14日	パーソン・センタードケア 認知症をもつ人と共に歩むケアへ
平成29年9月	地域部会 事例検討会

13. 生活福祉課勉強会

年月	項目	目的
平成29年 6・8・10・12・2月	緊急対応訓練	入苑者・ご利用者の方が急変した場合、慌てることなく対処できるようにしている。

〇2月は実際に119連絡し消防局とのやり取りを行った。

14. ユニットにおける認知症ケアに関する検討会や事例検討会（ユニットmt時含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
けやき	1	0	1	0	1	1	1	1	0	1	1	0	8
かつら	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12

15. サービス担当者会議及び家族カンファレンス（医療カンファ含む）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
担当者会議	7	4	8	6	5	9	6	5	9	6	5	9	6.6
医療カンファ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	1	0.33
計	7	4	8	6	5	9	7	5	9	6	7	10	6.9

16. ユニットミーティング及び衛生委員会回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
衛生委員会	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
けやき1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
かつら1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
医務室	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

17. ボランティア（平成29年4月～平成30年3月）

内容	回数	内容	回数
傾聴	8	演奏披露	2
歌・踊り披露	1	清掃	2

18. カフェこかげ・歌声喫茶開催数及び参加者数（平成29年4月～平成30年3月） 単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
カフェこかげ	56	51	57	59	36	50	35	57	53	11	0	39	504	42.0
歌声喫茶	70	66	72	64	60	56	45	63	58	61	0	56	671	55.9

19. 避難誘導訓練（土砂災害訓練）・夜間防災訓練（平成29年4月～平成30年3月） 単位：回

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
避難誘導訓練（土砂災害訓練）	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	11
夜間想定防災訓練									1				1

20. きんりゅうケアセンター実習・研修受け入れ（平成29年4月～平成30年3月）

年月日	学校・団体名	人数
平成29年4月13日	佐賀銀行新人行員研修	10名
平成29年5月15日・16日・22日	佐賀県農協共同組合新人職員研修	8名
平成29年7月3日～7日	佐賀女子高校 介護実習（職場体験）	2名
平成29年7月3日～11日	神埼清明高校 介護実習	1名
平成29年7月21日～8月18日	神埼清明高校 介護実習	1名
平成29年8月2日～4日	城北中学校 職場体験	2名
平成29年8月8日	清和高校 職場実習	1名
平成29年8月29日～9月6日	西九州大学 社会福祉援助技術実習	1名
平成29年9月25日～10月13日	県立総合看護学院 実習	6名
平成29年10月10日・11日	佐賀大学医学部看護学科 老年看護実習	7名
平成29年10月23日～27日	介護労働安定センター 介護職員実務者研修	1名
平成29年11月28日・29日	佐賀大学医学部看護学科 老年看護実習	7名
平成29年12月11日～13日	神埼清明高校 介護実習	2名
平成30年2月5日～17日	西九州大学 介護福祉実習	2名
平成30年2月13日	神埼清明高校 初任者研修	2名
平成30年3月5日～9日	神埼清明高校 介護実習	2名
平成30年2月28日・3月7日	佐賀歯科衛生専門学校 実習	6名
	実習依頼数（校・団体）： 9校・2企業	61名

21. 入所申込み数及び平成29年現在の優先入所待

平成29年4月～平成30年3月までの申込者	20
平成30年現在の優先待機者数	55

22. 事故（リスクマネジメント） 平成29年4月～平成30年3月

日時	事故の状況	怪我の程度	受診・入院	保険適用
4月25日 9:00頃	職員が他の方のトイレ誘導で離れている際にご自分で動かれ、左側を下にした状態で車椅子より転落される。	左脇腹付近の痛み	湿布貼布 様子観察	無
8月13日 17:45頃	ベットより離床して頂くため、ベット柵を外し足元の排泄交換の道具を移動させようと目を離した際に本人様が起き上がられ、ベットと職員の間転落される。	口からの出血（1cm程度の切り傷）・下唇と内側と外側の貫通・右前腕、左手第2指の内出血	佐賀医大 へ受診	有り

10月14日 8:50頃	口腔ケア後、洗面台の上部の棚よりタオルを取った際に付近にあった入浴剤に触れ落ち、頭頂部に当たる。	頭頂部に1.5cmの裂傷	佐賀記念 病院へ受 診	無
12月31日 9:35頃	リビングのソファに座られテレビを観ておられたため、職員が他の入居者のケアへ入っている際にご自分でソファより立ち上がり転倒される。	痛みや赤み等なし	様子観察	無
3月19日 9:20頃	介護中にベットから転落される。	外傷性急性硬膜下血腫	好生館へ 受診・入 院	調査中

9 ユニット型短期入所生活介護事業報告

10 ユニット型介護予防短期入所生活介護事業報告

きんりゅうケアセンター桂寿苑 短期入所生活介護

平成29年度事業計画「重点目標」反省と考察（総括）

(1) ご利用・家族が笑顔あふれる生活を送るための自分達が入りたいユニット作りへの取り組み

ユニット会議中でフセン会議を行い、各スタッフが捉えている課題を出し合い共有し、取り組める課題から、取り組みを行い、自分達が入りたいユニット作りを行った。

ご家族・ケアマネジャーや関係事業所との情報共有を密に行う事を基本としているが、関係事業所との情報共有がうまく出来ていない事があった。共有が必要な情報がある場合は、ショート窓口より、情報の発信を行うよう統一している。スタッフ全体の質向上の為、様々な事案を想定して緊急対応訓練を行っている。新たに、当直者の参加及び消防署の協力を得て、緊急時の電話対応も取り入れる事で、より緊張感を持ち、緊急時の動きの把握・確認ができた。今後も医務室を中心に継続行う。

(2) 若年性認知症をはじめ認知症ケアの知識・技術向上及び専門知識向上への取り組み

認知症ケアの知識・技術への向上への取り組みとして、外部研修への参加を行っている。認知症ケアが日々進化している最新情報を得る為、外部研修への参加が必要と感じている。研修参加への機会を増やし、これからも積極的に参加していける様に促していきたいと思う。ご家族や利用者との関わりを行い、コミュニケーションを通して、不安や要望を引き出しながら個別での対応を行い、信頼関係の構築に努めた。今後も継続して行う。

(3) スタッフが継続就業するための働きやすい職場環境への取り組み

日頃より、スタッフの表情や言動等の変化の観察を行い、変化が見られた際や、個別での相談等を受けた際は、早い段階で解決出来るように、メンタルヘルス窓口や上司に繋げる等の対応を行った。スタッフが継続就業出来るように、より相談しやすい環境をつくるためにも日頃からの労いの言葉や感謝の言葉を声にし、信頼関係を深める必要があると思われる。心も身体もリフレッシュ出来る様に、有給休暇を出来るだけ取り入れ、モチベーションアップに繋げた。

前年度、実習生の受け入れの際、実習生に対しての言葉掛けや対応が悪かった事を踏まえスタッフに対し実習生との関わり方の見直しを行った。今後も一緒に働きたいと思っただけのように実習中の声掛け等の配慮を行っていく。

(4) 地域・社会貢献活動への参加

地域密着型運営推進会議の開催や、サービス担当者会議に積極的に参加行い、ご家族・ケアマネジャーとの情報共有を行い、個別ケアに繋げている。地域密着型運営推進会議への参加者が固定している事が課題であると感じられる。参加者を増やすために、会議の内容を事前に伝えたり、年間計画等を配布し、参加してもらえる様な工夫が必要と思われる。

(5) 利用者確保や定員管理による安定した施設経営・運営への取り組み

入院や施設入所により、ショート利用者数の減少あった。

ホームページへ空き部屋情報の掲載・事業所訪問時や連絡時に新規利用者確保の為、継続して情報発信を行った。現在ショート利用の無い事業所にも、空き部屋情報の発信を行い、新規利用者確保に努めている。

新規利用者の初回利用後は、ご家族やケアマネジャーへ利用時の様子等の情報提供を行いご利用者のご意見を伺い、次回サービス利用に繋げていくようにした。

1. 平成29年4月～平成30年3月末までの新規利用者数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	1	2	0	2	0	0	0	5
5月	0	0	0	0	0	0	1	1
6月	0	1	1	1	0	1	0	4
7月	0	2	0	0	0	0	0	2
8月	2	0	1	1	0	0	0	4
9月	0	0	4	1	0	0	0	5
10月	0	0	0	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	1	0	0	1
1月	1	1	2	0	0	0	0	4
2月	0	0	2	1	0	0	0	3
3月	0	2	0	0	1	1	0	4
合計	4	8	10	6	2	2	1	33

2. 平成29年度短期入所生活介護・介護予防生活介護実績

(単位：延べ人数)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計	実人数
4月	0	21	190	50	196	83	32	572	44
5月	0	2	170	34	161	79	41	487	40
6月	0	8	187	41	196	85	32	549	43
7月	0	13	177	40	224	112	34	600	41
8月	5	10	195	59	231	108	30	638	51
9月	7	10	201	68	208	74	20	588	52
10月	3	3	175	59	202	112	38	592	47
11月	0	2	115	127	193	111	35	583	41
12月	5	0	142	101	235	84	30	597	45
1月	4	9	139	125	229	60	41	607	44
2月	0	7	137	94	217	59	45	559	46
3月	3	5	118	92	243	113	47	621	41
合計	0	90	1,946	890	2,535	1,080	425	6,993	
平均	3	8	163	75	212	90	36	583	

3. 苦情・要望

日時	苦情・要望内容	対応
6月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・ショートステイ帰宅後、持ち帰った荷物が適当にいれられていた。 ・ビニール袋に衣類と『洗濯していません』の紙が入っていたが、着替えた服が着替えていない服かわからないので分かる様にしてほしい。 ・口腔内ケアで使用したコップや歯ブラシ類が、濡れたまま返ってきた、不衛生である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ショート退所の荷物確認後に、本人様が荷物を持ち歩かれる事がある為、お帰りになる前に再度荷物が綺麗に入っているかの確認を行う。 ・着用された衣類が分かる様に、持参の専用ビニール袋に入れてお返しする。 ・口腔内ケア後に、タオルにて水滴が残らない様に拭きあげてからお返しする。
7月11日	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴介助時に、椅子に座るといきなりお湯をかけられた。お湯の温度の確認もなかった。 ・シャンプーハットを貸してほしいと頼んだら、取りに行かれ、しばらく戻って来られなかった。身体や頭が濡れた状態で時間が経過した為体調を崩し、帰宅後も寝込んだ。 ・右腕に痛みがある為、衣類の着脱に時間がかかるので手伝ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴の際、必ず声かけ確認してお湯をかけているが、耳が聞こえにくい方である為、本人様が聞こえる様に声かけし了承を得てからお湯をかける。 ・シャンプーハットを隣の浴室に取りに行く際、バスタオルを掛ける等の配慮が足りなかった。少しの時間でも、利用者にとっては長い時間を感じるため事前に本人様の入浴方法の確認を行い、必要物品の準備を行う。本人様の身体状況に合わせて、確認しながら衣類着脱のお手伝いをしていく。

1 1 認知症対応型通所介護事業報告

1 2 介護予防認知症対応型通所介護事業報告

きんりゅうケアセンター桂寿苑 通所介護

平成 29 年度事業計画の反省と考察（総括）

- (1) 認知症の利用者の在宅生活の継続と意欲向上に向けた取り組みについて
- ① 安心して一日を過ごす事が出来るように認知症対応型通所介護独自のアセスメントを行い、行動心理症状が大きくなりすぎない関わりや環境を作っていく。
 - ② 利用者が持っている力を発揮できるイベントやプログラムを企画し、楽しく生き活きと過ごす事が出来るサービスを企画し提供する。
 - ③ 事業所での細かなアセスメントに基づいた根拠ある個別計画の作成及び計画の実践と定期的な評価によるサービスの確認を充実させる。
 - ④ 作業療法士、保健師、介護福祉士、看護師や認知症介護実践研修を受講した専門スタッフがその知識や技術に基づいた利用者の生活行為に沿った健康管理、機能訓練などサービスの提供を行う。
 - ⑤ 担当のケアマネジャーを中心に家族介護者を含んだ事業所内外の関係者間でのカンファレンスやケース会議を随時開催し、常に変化する利用者の生活の状況に応じたバラツキのないケアの提供を行う。
 - ⑥ 苦情や要望等へは事業所全体で迅速に再発防止への対策対応を行い、公表する事で事業の透明性を図っていく。また、積極的に事業所内のリスクに対しては未然に防ぐためのリスクマネジメントへ力を入れる。
 - ⑦ 家族や介護者の都合や家庭の状況に応じ、時間延長サービス等柔軟なサービスの提供を行っていく。
 - ⑧ 連絡帳やメールなどを活用しデイサービスでの過ごし方や介護者が望む情報を発信しこまめな情報交換を行い自宅での介護家族との連携したケアの実践に取り組む。
 - ⑨ 若年性認知症の方にもあった個別プログラムを用意し、本人や介護家族の気持ちに沿ったケアを提供する。
 - ⑩ 関係する医療機関との情報を通所介護連絡ノートやケア記録を活用し密にとり医療と介護の両面より本人や家族への支援が行えるよう実践を行う体制づくりを行う。
 - ⑪ 認知症の進行を遅らせるケアや行動心理症状を大きくさせない予防的なケアを個別のアセスメントを行い実践を行う。

- ①③ 利用者に不安や混乱などの症状がみられた場合は、その原因を探るために、目的や期間観察点を明確にしてモニタリングを行い、得られた結果を分析、考察していくことで、その方に合ったケア方法を導くことができた。
- ② 少人数で利用者としっくり関わることできる菜の花デイドライブを実施した他、得意とされている琴の演奏をボランティアの先生とともに披露して頂いたり、回想法での利用者の希望から抹茶をたてて頂く企画をしたことで、利用者の満足感、自信、達成感につながったと考える。
- ④ 認知症介護実践者研修を職員 1 名が受講し、事業所でも勉強会や利用者への関わり方の検討を行ったことで、利用者の精神面の安定につなげることができた。
- ⑤ 利用者の身体面、認知面、精神面に変化が見られたケースでは、事業所から担当ケアマネジャーに、他事業所を含めた臨時のカンファレンスの開催を提案した。カンファレンスを通してケアの方針を明確にすることができた。
- ⑥ 苦情については事業所内で原因の分析と再発防止策の検討を行った。今後、苦情や要望に対する改善の取り組みについても、地域密着型サービス運営推進会議等で報告することで、事業の透明性を図り、また家族に要望や意見を何でも言って頂ける事業所づくりを行っていく。
- ⑦ 家族の要望に応じて早朝サービスや時間延長サービスを提供した。主介護者が仕事をしているケースもあるため、今後も柔軟に対応していく。
- ⑧ 利用者によっては連絡帳の記載項目や書式をご家族の意向に合わせて作り替えたり、職員間でも、家族が知りたいと思われる内容を確認したことで、より密に家族と連携ができたと思われる。今後連絡帳希望者が増えている中、知りたいと思われることを十分に伝えることができるように様式を変更するにあたり家族に確認しながら行っていく。
- ⑨⑩ 継続して、若年性認知症の方も含む利用者一人ひとりに、個性やそのらしさを大切にして能力を発揮したり生き生きと笑顔で過ごすことを目指した「個別プログラム」を計画、実施することができた。今年度は各利用者担当者によりアセスメントを深めた上での計画をし、利用者の組み合わせや利用頻度を考えた上での週間計画を立てたことで目的を意識しながら利用者にしっくり関わることができた。今後も実施状況や効果を評価しながらより個別の状況や気持ちに合わせた個別プログラムを実施していく。また、平成 29 年 5 月より脳や心の活性化を促すことで認知症予防、進行の抑制の効果が期待される「回想法」を実施することができた。今後も評価を行いながら実施していく。
- ⑩ 定期的に利用時の本人の状況をまとめたものを受診時に主治医に渡して頂くことで、内服薬の調整の参考にして頂いた。今後も外部向けの介護状況情報提供書を作成するなどし、途切れのないケアができるようにしていく。

(2) 職員の資質向上とチーム力向上のための取り組みについて

- ① 地域支援事業の取り組みに向けてのスタッフの知識の向上と情報収集に力を入れスムーズな事業の導入が行えるように体制づくりを行う。
- ② 認知症対応型通所介護事業所としてのマネジメントに関する知識と介護保険運営基準の理解を深める研修と事業運営の確認を随時行う。
- ③ 常に職員の接遇向上に向けた改善を行い、適切な接遇実践と心配りある対応を行っていく。
- ④ 平成 30 年度の介護保険改正にむけた情報収集を行い、スムーズに移行できるように取り組んでいく。
- ⑤ 毎月の職員の個別担当利用者のカンファレンスを通して管理者からのスーパービジョンを実施しスタッフのケアマネジメント力の向上に取り組んでいく。
- ⑥ 一般通所介護と共同し重介護技術向上の為の職場内外の研修会の開催や参加及び独自の業務チェック表を活用したスタッフ個人の業務と技術の見直しに取り組んでいく。
- ⑦ 法人の地域貢献活動への積極的に参加する。
- ⑧ ストレスチェック等を活用した職員のメンタルヘルス対策を行い、職員の衛生管理に努めていく。

- ②⑥ 運営に関するものやケアに関する事等についての内部研修を開催することができた。次年度はそれが実践の場で活かされているかの確認を行っていく。
- ③ 接遇委員を中心に、電話での言葉遣いや周りの配慮等について注意喚起の貼り紙をしたり接遇についての自己点検を行うことができた。
- ④ 介護保険改正に関する研修に参加し、利用者家族へ必要な説明を行う等スムーズに移行することができた。
- ⑤ 毎月個別担当利用者についてのカンファレンスを行い、認知症介護指導者によるスーパービジョンを受け、ケアマネジメントについて学ぶことができた。
- ⑦ 桂寿苑一座や歌声喫茶、地域でのふまねっと教室、あいあい café の活動の運営に携わることができた。
- ⑧ ストレスチェックの集団的分析結果を受け、平成 29 年 11 月より主に業務量や業務のすすめ方について改善するためのカエル会議を毎月行い、業務時間の短縮につながった。

(3) 安定した事業運営の為の取り組みについて

- ① 定員確保に向けての登録者や欠席状況等数値化して分析し安定した利用人数を確保していく。
 - ・デイでの感染症の予防や健康管理の実施と利用者や家族への情報提供
 - ・利用者分析による登録者の把握
 - ・待機者・長期欠席者への定期的な情報発信や声かけ
 - ・利用中止者や利用中止リスク事例の分析や再発防止への取り組み
- ② 居宅介護支援事業所や地域包括支援センターへサービスの情報や広報活動及び意見交換を行い、事業所理解を深めてもらう取り組みを行う。
- ③ ケアの質の向上の為の毎月の職員研修や利用者体験を基にした職場の課題に対しての取り組みの検討と課題解決の為の実践に取り組む。
- ④ 独自のパンフレットや法人ホームページ、お便りを活用した広報活動を行う。
- ⑤ 利用者・家族・スタッフと様々なアンケート実施を実施し常に事業所の分析を行って課題解決に向けての取り組みを行う。

- ① 今年度は新規者と抹消者数の状況から、毎月の必要新規者獲得数を最低1名/月と明確にし、新規者獲得状況も見える化し取り組んだが、新規者が1名も獲得できなかった月があったり、入院とショートステイによる欠席増などから前年度を下回る利用実績となった。今後は事業所での取り組みや菜の花デイでできることをよりわかりやすくケアマネジャーや家族、地域に発信し、新規者獲得につなげていく。利用中止者はなく、感染症の蔓延もなかった。
- ②④ 空き状況お知らせのチラシやデイ便りの配布、ホームページの更新を行い、また今年度新しくパンフレットを作成し関係居宅介護支援事業所や地域包括支援センターに広報に出向いた。
- ③ 月に一度、利用者体験を行うことで、客観的に職員の利用者に対する関わり方、立ち振る舞いを見直すことができた。
- ⑤ 利用者家族アンケート結果をもとに、行事・プログラムの検討や利用者にとってメリハリのあるデイサービスの1日の流れ等について職員間で検討し随時改善していくことができた。次年度はより利用者家族が回答しやすく、利用者家族の意向を聞き取ることができるようアンケート内容を検討していきたい。

(4) 地域ニーズに応じた事業所づくりに向けたサービスの確立について

- ① 医療機関と他介護保険事業所と連携を図るための情報交換の場を作る。
- ② 地域包括支援センターや地域の各関係団体との連携や地域づくりの場へ参加し、地域ニーズに応じた予防に効果的なサービス作りを行い実践する。
- ③ 地域密着型サービス事業所として定期的に地域の方や家族、利用者、各関係機関が話し合う会議を開催し情報交換を行う事で事業所のケアの向上に取り組む。
- ④ 地域密着型サービス運営推進会議を開催し、地域に開かれた事業所となるため、利用者又はその家族、地域住民に向けてサービスの内容を明らかにしていくような内容を実施する。

- ①② 金泉包括支援センターが主催する勉強会に参加した。また金泉包括支援センターより地域の情報を頂いたり運営推進の助言も頂いた。次年度はきんりゅうデイサービスの、予防に効果的なサービスについて積極的に発信し、地域支援の中核となることができるよう努めていく。
- ③④ 地域密着型サービス運営推進会議を2回開催し、事業所の取り組みを知って頂いたと同時に意見を頂き家庭での認知症ケアの難しさがわかった。日頃から積極的に家族とコミュニケーションをとっていくことはもちろん、家族ケアについても今後学んでいく。

1. 平成29年度認知症対応型通所介護利用実績（単位：人）

月～土	延利用人員	実施日数	1日平均人員
4月	168	25日	6.7
5月	173	27日	6.4
6月	169	26日	6.5
7月	151	26日	5.8
8月	145	27日	5.3
9月	149	26日	5.7
10月	180	26日	6.9
11月	189	26日	7.2
12月	168	26日	6.4
1月	173	27日	6.4
2月	135	24日	5.6
3月	159	27日	5.8
計	1959	313日	6.2

1日平均人員は、前年度に比べ1.5名の減であった

2. 平成 29 年度要介護度別利用者実績（介護・予防給付）（単位：人）

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	実人員	0	2	8	0	4	2	1	17
5月	実人員	0	2	8	0	4	2	1	17
6月	実人員	0	2	8	0	2	2	1	15
7月	実人員	0	2	8	0	2	2	1	15
8月	実人員	0	2	7	0	1	2	2	14
9月	実人員	0	2	7	1	1	2	2	15
10月	実人員	0	3	7	1	1	3	2	17
11月	実人員	0	3	7	2	2	3	2	19
12月	実人員	0	3	7	2	2	4	2	20
1月	実人員	0	1	8	2	2	3	2	18
2月	実人員	0	1	8	2	2	2	2	17
3月	実人員	0	1	8	1	2	1	2	15
H29年度 平均	実人員	0	2	7.5	0.9	2	2.3	1.6	16.5

13 きんりゅう通所介護事業報告

14 きんりゅう介護予防通所介護（相当サービス）事業報告

きんりゅうケアセンター桂寿苑 通所介護

平成29年度事業計画の反省と考察（総括）

(1) 利用者の在宅生活の継続と意欲向上に向けた取り組みについて

- ① 多彩な楽しめるイベントやプログラムを企画し、楽しく生き生きと過ごす事が出来るサービスの場づくり。
- ② 事業所での細かなアセスメントに基づいた根拠ある個別計画の作成及び計画の実践と定期的な評価によるサービスの確認を充実させる。
- ③ 作業療法士、保健師、介護福祉士、看護師等の専門スタッフがその知識や技術に基づいた利用者の生活行為に沿った健康管理、機能訓練などサービスの提供を行う。
- ④ カンファレンスやケース会議を随時開催し、常に利用者の生活の現状に応じたバラツキのないケアの提供を行う。
- ⑤ 苦情や要望等へは事業所全体で迅速に再発防止への対策対応を行い、公表する事で事業の透明性を図っていく。また、積極的に事業所内のリスクに対しては未然に防ぐためのリスクマネジメントに力を入れる。
- ⑥ 家族や介護者の都合や家庭の状況に応じ、時間延長サービス等柔軟なサービスの提供を行っていく。

- ① 様々なイベントやプログラムを企画したことで、利用中止なく利用者に生き生きとした明るい表情で過ごして頂くことができた。今年度は利用者家族アンケート結果を受け、火曜日の目玉として体力アップ運動を開始した。次年度は、ふまねっと運動や体力アップ運動等について実施や評価方法を確立し、利用者の楽しみと在宅生活の継続につながるようなプログラムの提供を行っていく。
- ② 介護過程において、利用者担当者として利用者の変化に気づき必要なケアについてアセスメントし考察し発信していくということが不足しているため、今後は利用者担当者として少なくとも月に一度は利用者の状況やサービス提供状況を確認し、必要な動きができるよう組織内の仕組みづくりを行っていく。
- ③④ 今年度は毎月のミーティングをケース検討を中心としたものに変更し本人の状況を分析して具体的な支援に繋げることができた。ケース検討等を今後も活発に行っていく、それぞれの専門分野での気づきや見解も集約させていく。またケース検討に向け十分な準備を行い深い考察ができるよう努めていく。

- ⑤ 苦情については、迅速に対応するとともに原因の分析と今後の対応について検討し、全職員に周知することができた。リスクについては今年度も大きな事故があった。次年度は事故をゼロにすることができるような積極的な気づきの促し発信等がなされる組織づくりを行っていく。
- ⑥ 家族の要望により早朝サービスや時間延長サービスを提供することができた。

(2) 職員の資質向上とチーム力向上のための取り組みについて

- ① 地域支援事業の取り組みに向けてのスタッフの知識の向上と情報収集に力を入れスムーズな事業の導入が行えるように体制づくりを行う。
- ② 通所介護事業所としてのマネジメントに関する知識と介護保険運営基準の理解を深める研修と事業運営の確認を随時行う。
- ③ 常に職員の接遇向上に向けた改善を行い、適切な接遇実践と心配りある対応を行っていく。
- ④ 平成 30 年度の介護保険改正にむけた情報収集を行い、スムーズに移行できるように取り組んでいく。
- ⑤ 毎月の職員の個別担当利用者のカンファレンスを通して管理者からのスーパービジョンを実施しスタッフのケアマネジメント力の向上に取り組んでいく。
- ⑥ 重介護技術向上の為に職場内外の研修会の開催や参加及び独自の業務チェック表を活用したスタッフ個人の業務と技術の見直しに取り組んでいく。
- ⑦ 法人の地域貢献活動への積極的に参加する。
- ⑧ ストレスチェック等を活用した職員のメンタルヘルス対策を行い、職員の衛生管理に努めていく。

- ②⑥ 運営に関するものやケアに関する事等についての内部研修を開催することができた。次年度はそれが実践の場で活かされているかの確認を行っていく。
- ③ 接遇委員を中心に、電話での言葉遣いや周りの配慮等について注意喚起の貼り紙をしたり接遇についての自己点検を行うことができた。
- ④ 介護保険改正に関する研修に参加し、利用者家族へ必要な説明を行う等スムーズに移行することができた。
- ⑤ 毎月個別担当利用者についてのカンファレンスを行い、認知症介護指導者によるスーパービジョンを受け、ケアマネジメントについて学ぶことができた。
- ⑦ 桂寿苑一座や歌声喫茶、地域でのふまねっと教室、あいあい café の活動の運営に携わることができた。
- ⑧ ストレスチェックの集約的分析結果を受け、平成 29 年 11 月より主に業務量や業務のすすめ方について改善するためのカエル会議を毎月行い、業務時間の短縮につながった。

(3) 安定した事業運営の為の取り組みについて

- ① 定員確保に向けての登録者や欠席状況等数値化して分析し安定した利用人数を確保していく。
 - ・デイでの感染症の予防や健康管理の実施と利用者や家族への情報提供
 - ・利用者分析による登録者の把握
 - ・待機者・長期欠席者への定期的な情報発信や声かけ
 - ・利用中止者や利用中止リスク事例の分析や再発防止への取り組み
- ② 居宅介護支援事業所や地域包括支援センターへサービスの情報や広報活動及び意見交換を行い、事業所理解を深めてもらう取り組みを行う。
- ③ ケアの質の向上の為の毎月の職員研修や利用者体験を基にした職場の課題に対しての取り組みの検討と課題解決の為の実践に取り組む。
- ④ 独自のパンフレットや法人ホームページ、お便りを活用した広報活動を行う。
- ⑤ 利用者・家族・スタッフと様々なアンケート実施を実施し常に事業所の分析を行って課題解決に向けての取り組みを行う。

- ① 今年度は新規者と抹消者数の状況から、毎月の必要新規者獲得数を最低 3 名/月と明確にし、新規者獲得状況も見える化したことで、平成 30 年 3 月は稼働率が 86%と過去最高となり目標値を超え前年度を超える実績となった。欠席者状況の分析も継続して行った。次年度もこまめな登録者数の管理を行い、また重度の利用者を積極的に受け入れていくことでさらなる経営の安定化を図っていく。利用中止者はなく、感染症の蔓延もなかった。
- ②④ 空き状況お知らせのチラシやデイ便りの配布、ホームページの更新を行い、また今年度新しくパンフレットを作成し関係居宅介護支援事業所や地域包括支援センターに広報に出向いた。
- ③ 月に一度、利用者体験を行うことで、客観的に職員の利用者に対する関わり方、立ち振る舞いを見直すことができた。
- ⑤ 利用者家族アンケート結果をもとに、行事・プログラムの検討や利用者にとってメリハリのあるデイサービスの 1 日の流れ等について職員間で検討し随時改善していくことができた。次年度はより利用者家族が回答しやすく、利用者家族の意向を聞き取ることができるようなアンケート内容を検討していきたい。

(4) 地域ニーズに応じた事業所づくりに向けたサービスの確立について

- ① 医療機関と他介護保険事業所と連携を図るための情報交換の場を作る。
- ② 地域包括支援センターや地域の各関係団体との連携や地域づくりの場へ参加し、地域ニーズに応じた予防に効果的なサービス作りを行い実践する。

- ①② 金泉包括支援センターが主催する勉強会に参加した。また金泉包括支援センターより地域の情報を頂いたり運営推進の助言も頂いた。次年度はきんりゅうデイサービスの、予防に効果的なサービスについて積極的に発信し、地域支援の中核となることができるよう努めていく。

1. 平成 29 年度通所介護利用実績

(単位：人)

月～土	延利用人員	実施日数	1日平均人員
4月	567	25日	22.6
5月	645	27日	23.8
6月	589	26日	22.6
7月	621	26日	23.8
8月	590	27日	21.8
9月	605	26日	23.2
10月	612	26日	23.5
11月	598	26日	23
12月	621	26日	23.8
1月	645	27日	23.8
2月	589	24日	24.5
3月	698	27日	25.8
計	7380	313日	23.5

1日平均人員は、前年度に比べ0.6名の増加が見られた。

2. 平成 29 年度要介護度別利用者実績（介護・予防給付、介護予防通所介護相当サービス）

(単位：人)

		要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
4月	実人員	11	21	32	6	4	1	1	76
5月	実人員	13	21	32	6	5	1	1	79
6月	実人員	12	21	32	6	5	0	1	77
7月	実人員	13	21	33	5	4	1	1	78
8月	実人員	12	20	34	5	4	0	2	77
9月	実人員	12	19	36	6	5	0	1	79
10月	実人員	11	21	37	7	5	0	1	82
11月	実人員	11	21	37	7	5	1	1	83
12月	実人員	11	21	38	6	6	0	0	82
1月	実人員	11	22	35	9	6	1	0	84
2月	実人員	10	23	34	10	7	1	0	85
3月	実人員	11	22	34	9	6	2	0	84
H29年度平均	実人員	11.5	21	34.5	6.8	5.1	0.6	0.7	80.5

3. 事故及び苦情・要望

<事故>事故・怪我…6件

日付	事故の種別・状況	怪我の程度	受診・入院手術の有無	保険適用
H29.6	<u>擦り傷・打撲（女性 90 歳）</u> 早掴みのゲーム中に机で右前腕部肘近くを打たれる。	1.5 cm大程の擦り傷、5×3 cm程の腫れを生じる。	無。消毒、湿布貼付。	無
H29.12	<u>転倒・脳震盪・頭部全身打撲（女性 93 歳）</u> 買い物ドライブで店外に出る緩やかな傾斜で、買い物カートを押した本人の右側につき歩行していた所、他利用者がカートをもったことでカートが急発進し、本人の足がついていかず、職員も支えることができず転倒。	後頭部に 3~4 cm 大の皮下血腫と手指に擦過傷を生じる。	有。頭部をアイシングしながら受診。脳震盪と全身打撲の診断。	有
H30.2	<u>転倒・骨折（女性 88 歳）</u> 送り時に飼犬が戯れてき、張りつめた鎖に足を取られ転倒。	右手背部に 4 cm大の擦り傷と腫れ、右第 2、3 指付け根に 1 cm大の内出血、左第 3、4 指に 0.5 cm大の擦り傷を生じる。	有。右第 2 中主骨剥離骨折の診断。	有
H30.2	<u>擦り傷（男性 62 歳）</u> 浴室床のタイルで麻痺側の右足第 5 趾外側を擦られる。	右足第 5 趾外側に 0.5 cm大の擦り傷を生じる。	無。消毒、ガーゼ貼付。	無
H30.2	<u>転倒・打撲（女性 77 歳）</u> 歩行器で付き添い歩行中バランスを崩し後方に転倒。職員は支えることができなかった。	右後頭部と右腰部に痛みの訴えあり。	有。頭部 CT と股関節周囲のレントゲンの結果異常なし。	有
H30.3	<u>転倒（A 氏 女性 88 歳、 B 氏 女性 82 歳）</u> センター内を移動中、押し車歩行の A 氏がよろけた所後方の B 氏が支えようとして一緒に転倒。	A 氏 痛みなし。歩行状態にお変わりなし。 B 氏 赤みや腫れなく歩行状態にお変わりなし。左臀部に痛みあり。	B 氏 有（定期受診）。打身はあるが問題なし。	無

<苦情・要望>苦情…6件、要望2件

区分	内容	件数
要望	<u>昼食やふれ愛デイ誕生会のメニューについて</u> 昼食のメニューがワンパターンになっている。以前は丼物やかき揚げなどがあったが最近はない。魚料理は白身魚ばかり。また、ふれ愛デイ誕生会の食事の華やかさに欠けると申し出がある。フードサービス課職員に伝え参考にさせて頂くことを伝えた。	2件
苦情	<u>お正月レクリエーションの内容について</u> おみくじが入った入れ物を手繰り寄せるゲームで「凶」をひいたことがショックで夜も眠れなかったと本人が言っていると他事業所の職員よりケアマネジャーに連絡が入る。作成した職員がおみくじをひく方の気持ちへの配慮が不足していた。ご自宅に訪問し嫌な思いをさせてしまったことを謝罪。娘様にもお電話で謝罪した。	1件
苦情	<u>お送り時の名前の呼び出し方について</u> 送りの車輛ごとにマイクでご利用者の名前を呼び出しているが、ある日の職員の呼び出し方に「名前を二度もフルネームで、鼻にかけたように〇〇〇〇さんと呼ばれむかーっときた。人を馬鹿にしている、どういうつもりで呼んだのか」と申し出がある。呼び出した職員はつい気分が高揚し病院の受付のようにアクセントをつけて呼び出してしまっていた。不快な思いをさせてしまったことを謝罪した。	1件
苦情	<u>下膳について</u> まだ食事の最中なのに、ある利用者がバタバタと他の人のお膳をさげたり、台を拭いたり、杖を倒したりして不快だった。利用者には下膳をさせないで欲しいと申し出がある。下膳は職員が行い、家事的なお手伝いの役割がある方には下膳以外の湯呑み洗いや下膳後の食器の振り分け等をして頂くようにした。	1件
苦情	<u>請求ミス後の対応について</u> 過徴収をしていたことをご利用者ご家族に説明謝罪後、具体的な返金の調整ができておらずご家族にも連絡ができていなかったため、ご家族より「どうなっているのか」と電話が入る。対応が遅くなってしまったことについて謝罪し返金日をお伝えした。	1件
苦情	<u>ドライブ時のお土産の購入について</u> 買い物ドライブで、本人様にご家族からお小遣いを預かっていることを数回伝えていたが何も購入されなかった。本人が自宅に帰られたあと「自分だけ買えなかった」と言われているとご家族より連絡が入る。謝罪し、今後は自分のものと認識ができるよう財布を手元にもって頂くようにすることを説明した。また、財布の管理も本人管理か職員管理かの見極めをし、お金を預かっていたのに商品を購入されなかった場合等は、こちらからご家族に状況を報告するようにしていく。	1件
苦情	<u>送迎時の対応について</u> 独居の利用者で、送り時はバッグについている鍵で玄関を開け、中に入って頂き玄関に届いている弁当を渡すようになっていたが、それが伝達と確認不足でできておらず「本人が玄関で家族が帰ってくるのを待っていると近所の人から連絡をもらった」とご家族より連絡があった。決まった送迎方法を徹底することを説明し、謝罪する。	1件

4. 年間行事実績

月	日	行事・企画名	日	手作りおやつ	日	ホームとの合同行事
4月	11	江頭団地ふまねっと	5.10.13. 15.18.21	桜餅	12	ひまわりばあばあの手芸教室
	6.13.20.27	ふまねっと				
	3	生け花				
	17~22	こいのぼり、買い物ドライブ				
5月	9	江頭団地ふまねっと	3.9.12. 15.25.27	みたらし団子	10	ひまわりばあばあの手芸教室
	4.11.18.25	ふまねっと				
	1	生け花				
	16~20.22	小城羊羹買い物ドライブ				
6月	13	江頭団地ふまねっと	3.9.12. 15.20.28	ホットケーキ	14	ひまわりばあばあの手芸教室
	8.15.22.29	ふまねっと				
	5	生け花				
	15~17.19~21	紫陽花ドライブ				
7月	11	江頭団地ふまねっと	5.8.10.14. 21.25	わらび餅	12	ひまわりばあばあの手芸教室
	6.13.20.27	ふまねっと				
	3	生け花				
	22.24~28	100円均一ドライブ				
8月	8	江頭団地ふまねっと	5.11.15. 24.28.30	マーマレードケーキ	9	ひまわりばあばあの手芸教室
	3.10.17.24.31	ふまねっと				
	7	生け花				
	1~5	ひまわりドライブ				
9月	12	江頭団地ふまねっと	22.23.25	おはぎ	13	ひまわりばあばあの手芸教室
	7.14.21.28	ふまねっと				
	4	生け花	12.21.27	フレンチトースト		
	19~23.25	彼岸花ドライブ				
10月	10	江頭団地ふまねっと	4.7.13.24. 26.30	リンゴケーキ	11	ひまわりばあばあの手芸教室
	5.12.19.26	ふまねっと				
	2	生け花				
	16~21	コスモス・松露饅頭ドライブ				
11月	14	江頭団地ふまねっと	4.7.10.13. 22.30	大学いも	8	ひまわりばあばあの手芸教室
	2.9.16.23.30	ふまねっと				
	6	生け花				
	20~25	松梅・嘉瀬川ダム紅葉ドライブ				
12月	12	江頭団地ふまねっと	1.5.14. 16.27	バナナケーキ クリスマスケーキ (25日のみ)	13	ひまわりばあばあの手芸教室
	7.21.28	ふまねっと				
	4	生け花				
	11.12.14~16.20	ダイレックスドライブ				
1月	9	江頭団地ふまねっと	4.8.12.17. 27.30	ぜんざい	10	ひまわりばあばあの手芸教室
	4.11	ふまねっと				
	8	生け花				
	1~3	初詣ドライブ				
2月	13	江頭団地ふまねっと	1.6.14.17. 19.23	マーブルケーキ	14	ひまわりばあばあの手芸教室
	1.15	ふまねっと				
	5	生け花				
	3/5~10	牛尾梅林ドライブ				
3月	13	江頭団地ふまねっと	17~23	ぼたもち	14	ひまわりばあばあの手芸教室
	1.8.15	ふまねっと				
	5	生け花				
	17.19~23 24.26~30	ありがとうの会 桜ドライブin久保泉桂寿苑				
その他	曜日対抗レクリエーション、木曜日以外の曜日のふまねっと、夏野菜の栽培、短歌大会への応募など					

5. 内部研修実績

月	内 容
4月	回想法について
5月	音楽リハビリ・レクリエーションの意義と進め方、編み紐体操について
6月	サービス提供時のリスク、認知症について（関わり方、チームアプローチ）
7月	認知症ケアの検討、リフト浴介助方法の見直し、褥瘡予防ケアの検討
8月	介護過程と各段階の視点、利用者担当者の役割について
9月	事例検討会
10月	送迎時の急変対応について
11月	食事摂取量が低下している方への対応について
12月	高齢者の疾患の特徴と対応について
1月	腰痛予防対策（オムツ装着方法の検討、ベッド上での排泄介助環境整備）

6. 反省及び考察

各プログラムの実施や評価方法について利用者にとって楽しみで在宅生活の継続に効果的となるよう検討し確立していくことが必要である。また、アセスメントのもと利用者担当者として積極的に必要な動きができるよう組織内の仕組みづくりを行っていく。リスクマネジメントにも力を入れ、事故を減らすことができるよう取り組んでいく。

15 訪問介護事業事業報告
 16 介護予防訪問介護事業事業報告

ホームヘルプサービスチーム桂寿苑

平成29年度事業計画「重点目標」の反省と考察（総括）

1. 介護保険対象者のみならず、予防領域の事業対象者や地域で生活している一般高齢者の方が必要なサービスを利用する事で住み慣れた地域で継続的に自立した生活ができるよう、ヘルパーチームの業務を常に見直し効率的かつ計画的な業務運営を行う。

行政が行う説明会等にも積極的に参加し、総合事業への移行もスムーズに行えるようヘルパーチーム内で情報を共有しながら計画的に業務を行った。

2. 他職種と連携を図り、利用者の発掘や個人の多様化するニーズに応じたサービスが提供できるような事業所作りを行う。

ヘルパーチームでの会議や定期訪問、担当者会議等により把握した、ご利用者・ご家族の生活ニーズに応じたサービスを関係するチームメンバーで共有し個別的なサービス提供を行った。

3. 個々の質の向上の為の研修や勉強会を行い、常に専門知識と技術を根拠としたサービスを提供していく。

職員一人一人の必要に応じた相談援助や時期に応じた研修や勉強会を柔軟に行い、チームとヘルパー個人の質の向上に努めた。

1. 介護保険（要支援・要介護者）の要介護度別利用者数

区分	要支援1	要支援2	小計	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	小計	合計①
人員	2	0	2	25	5	4	1	2	37	39
前年	16	22	38	21	6	4	0	4	35	73

総合事業利用者数（要支援）

区分	事業対象者	要支援1	要支援2	計②	介護保険・総合事業合計①+②
人員	0	21	32	53	
前年	0	0	0	0	

（平成30年3月31日現在）

2. 平成29年度介護保険（要介護者）事業実績（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年平均
身体介護	延人数	159	172	172	176	96	99	86	73	76	67	63	70	109	195
	実人員	13	14	14	14	17	15	15	14	13	13	12	12	14	16
生活援助	延人数	233	237	234	223	214	214	196	224	197	213	208	237	219	293
	実人員	28	29	28	26	2	28	27	26	23	24	26	28	25	25
身体生活	延人数	14	12	12	13	12	14	8	14	12	12	12	11	12	23
	実人員	2	2	2	2	27	3	2	5	3	2	3	2	5	5

3. 平成29年度介護予防訪問介護実績 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年平均
実人員	33	32	33	40	39	37	41	41	42	42	40	38	38	26
派遣回数	218	217	222	265	260	239	246	259	280	249	250	266	248	181

4. 平成29年度総合事業実績 (単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	前年平均
実人員	3	8	11	16	20	24	28	32	40	46	49	53	28	0
派遣回数	23	57	78	105	126	153	180	196	257	299	296	352	177	0

5. 事故及び苦情、要望

日時	事故の状況	怪我の有無	受診・入院 手術の有無	保険適用
7月 ※物品・備品破損	トイレの蓋破損(女性 85歳) 掃除中にトイレの便座の蓋を一部破損してしまった。	無	無	無
7月	派遣時間の遅れ(女性 77歳) 派遣に送れる旨の連絡をしていなかった。	無	無	無
9月	請求ミス(女性 92歳) 総合事業への移行ができていなかった。	無	無	無
9月	請求ミス(女性 94歳) 入力ミスを行い、差額分を次月に請求することになった。	無	無	無
9月	車で壁を擦る(女性 87歳) 駐車時に車が壁を擦ってしまった。	無	無	無
10月	派遣日の勘違い(女性 79歳) 派遣曜日を勘違いし時間は過ぎていたが遅れて入らせて頂いた。	無	無	無
11月	請求ミス(女性 53歳) 初回利用日を間違えてカウントし1回分多く請求してしまった。	無	無	無
11月	請求ミス(女性 93歳) ショート利用の分の日割り計算になっておらず、初回加算もつけ忘れていた。	無	無	無
12月 ※物品・備品破損	護身用棒破損(女性 92歳) 掃除中、枕元に置いてあった護身用棒(ブラシ)の一部が破損してしまった。	無	無	無
3月 ※物品・備品破損	カーペットほつれ(女性 86歳) 掃除機をかけている時にカーペットのほつれを巻き込みさらにひどくなった。	無	無	無

苦情…1件 要望…3件※うち2件はヘルプ外

区分	内容	件数
苦情	派遣職員の買い物時の伝達について ご利用者より連絡が入る。買い物の際、特売品を依頼していたが、特売品でない物を購入されていた。希望していた物がなかったからと同じ食材でも高いのを購入された。ヘルパーを交代してほしいと連絡を受ける。食への拘りも強く、ヘルパーを交代して対応した。	1件
要望	派遣について 一時、派遣を中止するとの連絡をご利用者本人、マネジャーから受けていたが、本人から派遣に来るのを待っていたとの連絡が入り、その後本人、マネジャーと再度調整しサービス再開を行う。	1件

区分	内容	件数
要望 ※ヘルプ外	ショート利用について ご家族よりショートを利用した際、薬等をきれいに小分けして渡していたが、帰宅した際は全て一つにまとめられて戻された、膝掛けの戻し忘れがあった、連絡帳の記入の仕方で改善を依頼していたが、改善されていなかったとの相談を受ける。事業所へ申し伝える。	1件
要望 ※ヘルプ外	担当マネジャーについて ご利用者本人より派遣時に担当マネジャーを交代したい旨、相談を受ける。特にトラブルがあった訳ではないが、マネジャーが訪問時に自分が缶詰開けや靴下履きを依頼してもらってほしいと話される。事業所へ申し伝える。	2件
苦情・要望	掃除の仕方とヘルパー交代について ご利用者本人より連絡が入る。床の間の掃除を一番にほしいがしてもらえない、雑巾を10枚用意しているが1枚しか使用していた、廊下を拭いた雑巾で水屋を拭いていた等との理由から、ヘルパーを交代してほしいとの相談を受ける。掃除については、対応を行っていたが、マネジャー、ご家族とも協議し担当ヘルパーを交代し、複数のヘルパーで交代しながら対応する事となる。	1件

6. 平成29年度訪問介護員 研修実績

	チーム会議	ヘルプミーティング	参加人数
4月	平成29年事業方針について (事業計画の説明)	ヘルパーの為の疲労回復・体調改善	23
5月	倫理および法令遵守に関する研修 (凌友会の職業倫理含む)	書類の整理や保管	24
6月	感染症、熱中症等に関する予防・対策に関する研修(病気と薬の知識)	接遇マナーについて	24
7月	リスク管理と苦情・要望への対応 (グループワーク)	ヘルパー会議の活性化の工夫 (モチベーションを高める)	24
8月	介護技術について (症状別の配慮のポイント介助術)	感染症に関する予防・対策 (予防、対策に向けて予備知識)	25
9月	認知症高齢者への対応方法について (シーン別介助ポイント)	記録、報告書の記入の仕方	25
10月	虐待について (関係機関からの専門的研修)	業務管理、指導方法について	20
11月	現場で役立つ簡単調理や家事技術について(実践研修)	虐待について (観察、介護のポイント)	20
12月	福祉用具の取り扱いについて (在宅で活用されている用具の知識)	リスク管理と苦情への対応	23
1月	接遇マナーについて	場面別サービス提供責任者の役割と業務の進め方	22
2月	緊急時の対応について (日々の実際の確認)	介護報酬改定と訪問介護事業の展望	24
3月	看取りケア	制度改正に伴う取り組みについて	19

7. 反省及び考察

①総合事業への移行により、他事業所が撤退する所が出てきた分、新規獲得に繋がっているケースが多く見られた。今後においては、平成30年の介護報酬改定の単価見直しにより、これまでの経営水準を維持できるか非常に厳しい面が予測される。その為、現状のサービス内容の見直しや派遣時間数等においても、より細かく利用者のニーズを発見し常にサービスの見直しや方向性を決めていく必要性が考えられる。

②人員不足については昨今どの分野においても言われている所であるが、当苑でも地域型ヘルパー(登録型ヘルパー)の高齢化が進み、必要な時間帯の人員確保が難しくなりつつある。必要な人員の募集を行いながら、今いる人材の質の向上、心身ともに健康維持を行う為に研修や勉強会の充実、セルフケアの管理・徹底を今後も継続していく。

17 居宅介護事業（障がい者）事業報告

居宅介護事業所 桂寿苑

1. 平成29年度障がい者居宅訪問介護実績（身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者）

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実人員	5	4	5	4	5	4	5	4	5	5	4	3	4.4
派遣回数	44	59	58	52	61	44	52	52	52	42	31	33	48.3

2. 反省及び考察

- ①ご利用者その人らしく地域で生活が継続できるよう介護支援専門員や関係機関との連携を図りながら情報提供や意欲促進につながる声かけ等を行った。
- ②法人内の介護保険事業所へのサービスに繋がったが、障がい者事業所としてはサービス減となり、今後もサービスの質の向上を行い、積極的に新規利用者の獲得に努める。

18 障がい者移動支援事業事業報告

居宅介護事業所 桂寿苑

1. 平成29年度移動支援事業実績

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
実人員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
派遣回数	2	1	3	2	2	2	2	1	2	2	2	2	1.9

2. 反省及び考察

- ① 事故がないように注意し、安全安楽に外出ができるよう努めた。また、気分転換が図れるようご利用者が興味のある事等を会話に取り入れスムーズに移動支援を行うことができた。
- ② 行政主催の説明会や他事業所との研修にも積極的に参加し、情報の精査をしながらサービスの質の向上に努めた。今後も必要に応じてサービスの調整を行い、介護支援専門員等との連携を図りながらサービスの見直し等にも努めていく。

19 生活援助員派遣（シルバーハウジング）事業報告

社会福祉法人 凌友会

1. 事業実績

別紙のとおり

2. 事故及び苦情要望・・・なし

3. 反省と考察

江頭団地シルバーハウジング入居者の生活相談、生活指導、安否確認、緊急時の対応などを行い、入居者が自立して安全かつ快適な生活を営むことができるように支援を行い、必要に応じて各関係機関（医療・保健・福祉サービス等）に繋げた。定期的に行っているお茶会や健康相談日では、ニーズに応じた内容の実施に努めた。具体的には、介護保険制度についての説明、介護予防体操紹介などを実施した。

今後の取り組みとして、新しく自治会の編成をされており、新たな人脈との積極的な交流と連携を通して信頼関係の構築を図りたい。

平成 29 年度 生活援助員派遣事業 実績報告書

訪問

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
緊急通報の有無														
誤報		8	4	6	10	10	2	7	7	9	8	15	12	98
相談・指導	心配事相談	12	8	10	6	4	18	13	6	11	9	7	8	112
	身の上相談	1	2	0	1	1	0	3	2	4	5	1	3	23
	身体的相談	16	15	18	25	28	29	19	22	19	21	18	18	248
	生活機能相談	0	4	9	10	10	11	8	12	13	2	0	1	80
	その他	80	88	83	83	100	69	85	83	93	74	81	77	996
	合計	117	121	126	135	153	129	135	132	149	119	122	119	1557

対応・照会・連絡調整の内訳

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
緊急時	救急車出動要請						1							1
	消防車出動要請													
	警察へ連絡													
	病院へ連絡													
	急病の世話													
	家事の世話													
	水センサー稼働													
	その他													
合計	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
保健・福祉	介護支援センター													
	ケアマネージャー	1	1	1	2	1	1		1	1	3	4	3	19
	デイサービス										1	1	1	3
	デイケア													
	訪問介護													
	ホームヘルパー								1					1
	ショートステイ													
	その他							1	1	1				
合計	1	1	1	2	1	1	1	3	2	4	5	4	26	
関係機関	建築住宅課													
	高齢福祉課	3	3		4		3	3	3	3	2	2	2	28
	自治会・民生委員										2	1	1	4
	住民・近隣者													
	医療機関													
	家族											1	1	2
	その他										1	1	1	3
合計	4	4	1	6	1	5	4	6	5	9	10	9	64	

公益事業

20 佐賀市金泉地域包括支援センター事業報告

佐賀市金泉地域包括支援センター

1. 包括的支援事業実績（平成30年度3月末現在） (人)

相談内容		28年度実績	29年度実績
① 介護保険その他保険福祉サービスに関すること		594	777
再揚 内訳 [重複不可]	介護保険に関すること	350	422
	福祉サービス等に関すること	43	33
	介護予防事業に関する事	0	61
	その他各種相談に関すること	201	261
② 権利擁護(成年後見制度等)に関すること		16	14
相談内容の種類		件数	件数
再揚 内訳 [重複不可]	成年後見制度の利用・紹介	10	6
	福祉サービス利用援助事業の利用・紹介	3	8
	消費生活センター等の利用・紹介	3	0
	その他	0	0
③ 高齢者虐待に関すること		16	0
虐待案件の種類		件数	件数
再揚 内訳 [重複不可]	身体的虐待	6	0
	ネグレクト	3	0
	心理的虐待	6	0
	性的虐待	0	0
	経済的虐待	1	0
計(①+②+③)		626	791

※反省及び考察

- ① 事務所の移転に伴い、行きやすさ、相談しやすさが地域の中でも広がり、飛び込みの相談等も含め相談件数は大幅に増加している。相談内容も多岐に渡るが、各々の専門性を活かすと共に、関係機関との連携を図り対応を行った。今後は相談内容から地域の課題の抽出、把握に努め、安心して住み続けることのできる地域づくり、地域包括ケアシステムの構築へとつなげていくよう更に取り組みを深化させていく。
- ② 前年度と比較し、介護予防事業に関する問い合わせは36件増加している。元気な高齢者から要支援者に至るまで一貫したケアマネジメントを行い、生活の質が向上するよう元気な高齢者作りの継続を図る。また、社会資源の開発、地域づくりについては生活支援コーディネーターと連携を図り、登録されている生活介護支援サポーターはじめ、元気な高齢者が担い手として活躍できる場を提供できるよう努める。また、制度の改正による対応し関しても、制度を正しく理解し、適切な対応を行っていく。
- ③ 相談件数の増加とは逆に、高齢者虐待に関しては、今年度相談はあがらなかった。権利擁護に関する広報の不足、相談経路の周知活動が十分ではなかったのではという反省点も考えられ、

地域の高齢者の権利が侵害されることなく、尊厳が守られるよう取り組みを行っていく必要がある。

2. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

(単位：件)

内 容	28 実績	29 年度実績
支援困難事例を抱える介護支援専門員への対応	22	12
個別事例に対するサービス担当者会議開催支援等	5	3
ケアプラン作成指導等を通じた介護支援専門員のケアマネジメントの指導	0	0
おたっしゅ本舗の周知活動等で事業所等に訪問	87	141

※反省及び考察

介護支援専門員の個々に抱える困難事例等個別の事例検討会を開催し、課題の解決に努めた。今後も個別の支援を行うと共に、全体での質の向上、課題分析力の向上を目指し、自立支援型地域ケア会議への積極的な参加、事例提出についても勧奨を行っていく。

おたっしゅ本舗の周知活動に関しては、全職種で連携し、ネットワークの拡大をはかった。その効果が相談件数の増加にもつながっていると考えられる。引き続き取り組みを継続する。

3. 地域ケア会議・ハートネットきんせん

(単位：人)

日時	会議名	内容	参加者数
4月24日	地域ケア会議	H氏の個別課題検討	8
25日	ハートネットきんせん	コアメンバー会議	9
6月21日	地域ケア会議	医療介護の連携	20
7月20日	地域ケア会議	民生委員のみなさんと意見交換会	37
8月17日	地域ケア会議	I氏の個別課題検討	8
25日	ハートネットきんせん	社会資源について グループワーク	39
9月21日	地域ケア会議	I氏の個別課題検討	19
10月6日	ハートネットきんせん	コアメンバー会議	8
24日	地域ケア会議	下記のN氏の個別課題検討	31
24日	地域ケア会議	交通網課題による買い物弱者への支援について	31
11月28日	ハートネットきんせん	感染症の予防と自分の健康を維持するために	43
12月8日	地域ケア会議	S氏の個別課題検討	9
14日	自立支援型地域ケア会議	T氏・Y氏の自立支援に向けた検討	23
1月23日	自立支援型地域ケア会議	口腔ケアの必要性について(事例1件)	40
2月20日	自立支援型地域ケア会議	S氏・H氏の自立支援に向けた検討	23
3月16日	ハートネットきんせん	H30年度制度改定について	53

※反省及び考察

地域ケア会議の定例化という事で1年を通し継続的な取り組みを実施した。地域の関係者及び関係機関、介護保険事業所等との連携・協働、ハートネットきんせんのネットワーク活動の推進(研修・交流)を図っていった。資源の開発には至っていないが、地域の関係者を交えた地域ケア会議の開催により、地域のニーズは徐々に見えつつある。今後も取り組みを継続し、資源開発に向けた地域ニーズの把握に努める。また、今年度より開催の義務化となった自立支援型地域ケ

ア会議についても、利用者本人の自立支援、介護支援専門員の質の向上を目指し、理学療法士等々の専門職種からの助言を受け、幅広い視野に立った課題分析力が身につくよう取り組みを継続していく。

4. 認知症地域支援推進員、生活支援コーディネーターの活動

(単位:回)

認知症地域支援推進員	実績	生活支援コーディネーター	実績
認知症の普及啓発	12	地域の実態把握	37
医療・介護の連携	7	地域の行事・活動への参加	14
見守りネットワーク	23	関係団体の会議・打合せ	36
個別対応	8	検討会・研修	33
検討会・研修	33		

※反省及び考察

関係団体の会議、地域の行事・活動にも積極的に参加し、地域のニーズや社会資源の把握に努めた。今後も、地域の様々な活動や行事に積極的に参加して地域への働きかけを行い、住民主体のたすけあいの基盤作りに努めていく。認知症については、見守りネットワークの事業者の開拓、地域への普及啓発活動に取り組んだ。引き続き取り組みを継続すると共に、認知症サポーター養成講座、認知症カフェの開催を目指し、認知症にやさしい地域づくりに努める。

5. 苦情・要望

苦情・要望	内容	件数
苦情		0

※反省及び考察

H29年度は苦情に至るケースはなかった。引き続き利用者及び家族、地域住民、関係者の方々との信頼関係の構築に努め、相談・要望等があった場合は迅速な対応に努めていく。そのためにも、職員間の情報の共有、課内外への研修への参加等を通し、知識の向上をはかっていく。

平成29年度 佐賀市金泉地域包括支援センター活動報告一覧

【佐賀中部広域連合】

回数	行事名称
1	代表者個別意見交換会
0	介護予防・日常生活支援総合事業における 介護予防サービス事業者等説明会等
2	地域包括支援センター運営受託法人代表者会議
1	地域ケア連絡会議
0	佐賀中部広域連合地域包括支援センター連絡会議
2	包括職員スキルアップ研修等

【佐賀市関係】

回数	行事名称
2	弁護士との事例検討会(高齢者が約懇関係)
2	認知症施策に関する検討会
1	佐賀市地域ケア会議
2	佐賀市運営委員会
2	包括支援センター管理者会議
2	佐賀市主任ケアマネ事例検討会
1	佐賀市薬剤師会・おたっしや本舗合同研修会

【研修参加】

参加日	研修名
6月2日	九州・沖縄地区認知症地域支援推進員活動研究大会
6月24日	地域包括支援センター職員等研修会
7月26日	H29年度認知症地域支援推進員研修
8月23日 ～24日	H29年度地域包括・在宅介護支援センター リーダー研修
9月25日 ～26日	全国地域包括・在宅介護支援センター研究大会
10月30日	佐賀市在宅医療・介護連携推進事業 H29年度 第1回 市民公開講座
1月20日	小城市市民公開講座 ～生活支援体制整備事業～
1月23日	在宅医療多職種連携推進研修会
2月9日	地域共生社会の実現に向けた講演会
2月10日	医療・介護の井戸端会議
2月13日	生活支援コーディネーター養成フォローアップ研修
2月15日 ～16日	介護予防サービス計画作成担当者研修会
2月22日	佐賀中部広域連合介護保険住宅改修等研修会

【地域づくり(まちづくり協議会、“ハートネットきんせん”活動他)】

回数	行事名称
2	コアメンバー会議
	おたっしや本舗金泉 事例検討会
1	ハートネットきんせん親睦会
3	ハートネットきんせん研修会
2	生活介護サポーターフォローアップ研修
2	金立・久保泉自主防災訓練
13	校区社協、まちづくり協議会他
1	久保泉行事(文化祭、盆踊り)
3	金立行事(健康長寿、ふれあいの集い等)
24	金立・久保泉民協 (各1回/月)

【GH及び地域密着型介護老人福祉施設運営推進会議参加】

30	5事業所
----	------

【地域密着型デイサービス運営推進会議参加】

10	5事業所
----	------

【まちなか相談室】

11	金立土の香(毎月開催)
12	ほっこりサロン
8	久保泉長寿会(久保泉まちなか相談)

【地域サロン事業参加】

回数	サロン名称
11	金立1地区、久保泉3地区

【医療と福祉の連絡会(医師会主催)】

2	全体連絡会
8	ブロック研修、連絡会

【社会福祉援助技術実習受け入れ】

2	日本福祉大1名、西九州大1名(各24日間)
3	実習報告会等

21 指定介護予防支援事業事業報告

佐賀市金泉地域包括支援センター

		請求件数 (単位：件)		
		自センター	委託	合計
28 年 度	4月	104	39	143
	5月	103	38	141
	6月	116	41	157
	7月	100	51	151
	8月	97	47	144
	9月	95	52	147
	10月	94	57	151
	11月	96	58	154
	12月	97	56	153
	1月	100	56	156
	2月	91	65	156
	3月	89	60	149
	計	1,182	620	1,802
	平均	98.5	51.7	150
29 年 度	4月	91	60	151
	5月	95	59	154
	6月	96	59	155
	7月	96	57	153
	8月	97	56	153
	9月	105	55	160
	10月	106	57	163
	11月	108	56	164
	12月	113	54	167
	1月	104	52	156
	2月	106	52	158
	3月	113	49	162
	計	1,230	666	1,896
	平均	102.5	55.5	158

※反省及び考察

職員体制が整い、今年度の新規利用者に関しては 84%を自センターでマネジメントしている状況である。総数として、マネジメント件数の増加傾向は続いている。重度化防止、自立支援型マネジメントの理念を念頭に置きつつ、まちなか相談室の開催、地域へ出向き潜在的なニーズの把握に努め、サービスの必要な方へ適切な支援が行えるよう、今後も取り組みを継続していく。

22 ケアマネジメントサービス事業報告

ケアマネジメントサービス桂寿苑

平成29年事業計画「重点目標」の反省と考察（総括）

1、高齢者の自立支援と質の高いケアマネジメントの実践を行う。

介護保険制度や福祉サービス等のフォーマルサービスと本人や家族、地域にある資源を活用したインフォーマルサービスを組み合わせてケアプラン作成を行い地域で継続して生活できるようマネジメントの実践に努めた。

医療連携に関しては、ミーティング等活用し、チーム内で情報を共有を行い、主治医と顔の見える関係を築き、利用者家族が安心して頂けるよう取り組みを行った。

2、困難事例等への積極的な介入を行い、チーム内で情報を共有し事業所全体のケアマネジメント力の向上を目指す。

定期での事例検討会に合わせて、困難事例に関しては緊急な検討会の開催し、事業所内での情報共有や支援方法の検討により知識や技術の向上に繋がった。また地域包括支援センターの開催する事例検討会やケア会議にも積極的に参加し事業所全体の質の向上に努めた。

3、法令遵守とケアマネジャーの運営基準に沿った業務管理を行う。

毎月、各ケアマネジャーの業務管理を居宅介護支援事業所内に設置している事務局にて業務の遂行状況を確認し運営基準に沿った業務の管理を行った。

始業時のミニカンファレンスにて、情報の共有や、現状の課題に対しての業務改善会議（カエル会議）の開催の実施、個々課題に対する早急な助言を行い解決にも努めた、この取り組みはスタッフのメンタルケアにもつながった。

4. 地域で選ばれる事業所に向けての取り組みについて

地域で開催された研修会に積極的に参加し知識の向上や情報収集に努めた。医療機関や関係機関、地域へ出向き、新たに作成したパンフレットや法人のホームページ

ージを活用し広報活動を行い、地域の各事業所とのつながりができた。また、サロン等の地域の集まりにも参加し、地域のニーズの発掘に努めた。

5. 総合事業実施及び時期介護保険制度改正に向けた取り組みについて

佐賀市や各包括、他事業所で行われる研修等に参加し情報収集に努めた。また介護保険改正に向け、積極的に各ケアマネジャーが研修会へ参加し、意識と知識を高め、チーム内でも情報の共有に努めた。

反省と考察（総括）

事例検討会を計画的に行い、全ケアマネジャーからの事例の提供と参加を促した結果、ケアマネジャー間での情報共有や支援方法の検討を行う事ができアセスメント力の向上に繋がった。今後もケアマネジャーの事例検討会への積極参加を促していく。あわせて外部で行われる地域包括支援センター等や他法人の事例検討会・研究会への積極的な参加も行っていく。

医療連携については各医療機関との医療連携方法や情報をチーム内で共有し主治医と顔の見える関係を築くことが出来た。今後も地域包括ケア構築の中では医療機関との連携は必須である為、継続的に力を入れていく。

業務の効率化や経費削減への取り組み等の経営面に対する取り組みとして、チームメンバーとして出来る事を検討し定期的に評価を行いながら、今後も意識を高め取り組みを行っていく。

平成29年度居宅介護支援事業実績 (単位：人)

	要支援 1	要支援 2	小計	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	小計	合計
4月	12	26	38	72	32	23	10	6	143	181
5月	14	27	41	72	30	26	11	5	144	185
6月	12	27	39	71	32	25	11	6	145	184
7月	12	26	38	76	30	26	10	7	149	187
8月	12	26	38	74	31	26	11	6	148	186
9月	13	25	38	72	31	25	11	5	144	182
10月	15	25	40	74	31	23	11	5	144	184
11月	15	26	41	73	34	23	11	5	146	187
12月	16	24	40	73	33	23	12	5	146	186
1月	18	25	43	77	33	25	9	5	149	192
2月	17	28	45	79	35	27	9	5	155	200
3月	20	26	46	75	34	26	11	6	152	198
									平均	187.7

平成29年度研修実施状況

【内部研修】

月	日	内容
4	26	ケアマネジメントサービス事業計画について・住宅改修について
5	24	H29年度介護サービス事業所等に係る集団指導
6	28	ケアマネジメントと効果的な業務のあり方
7	26	佐賀病院地域連携セミナー「知っとく講座」報告
8	16	カエル会議(ケアマネが抱えている課題)
9	27	佐賀県介護支援専門員協議会研究大会の報告
10	25	介護予防支援従事者研修会報告
1	24	専門課程Ⅱ研修報告
2	28	居宅介護支援における重要なポイント・注意すること
3	28	H30年度事業計画説明及び研修計画

【外部研修】

月	内容
4	介護支援専門員協議会総会「高齢ドライバーの認知症対策を強化する改正道路交通法について」
5	佐賀市の日常生活支援総合事業の現状について
	介護サービス事業者等に係る集団指導
6	和光市における介護予防と地域包括ケアへの挑戦
7	認知症の診断、病院、薬、薬の副作用によるものか？認知症の症状かの見極め等
8	介護支援専門員協議会研究大会
	おたっしゅ本舗金泉の地域ケア会議
	佐賀市北部ブロック研修会（事例検討会）
9	主任介護支援専門員事例検討会
	介護予防ケアマネジメントへの取り組み方
	キャラバンメイト
9	総合事業と包括支援センターの役割
	おたっしゅ本舗大和地域ケア会議
	おたっしゅ本舗金泉地域ケア会議
	基準上の居宅介護支援における重要なポイント
	介護支援専門員専門研修Ⅱ
	佐賀市北部ブロック研修会

月	内容
10	自信を持ってケアプランを作成するコツ 看護師職能Ⅱ 看取りについて おたっしゅ本舗金泉地域ケア会議11
11	介護認定調査員継続研修会 第2回佐賀市キャラバンメイト交流会 佐賀中部広域介護支援専門員協議会研修会 おたっしゅ本舗大和 多職種ケース検討会 ハートネット金泉 主任介護支援専門員事例検討会
12	佐賀中部広域介護支援専門員研修会
1	おたっしゅ本舗大和 多職種ケース検討会 おたっしゅ本舗金泉 地域ケア会議
2	在宅医療・多職種連携を図るためには 神埼ブロック研修 住み慣れた地域で医療と介護を受けるために 佐賀市医療・介護連携グループ会議
3	佐賀市北部ブロック研修 ハートネット金泉 多職種ケース検討会 ネットワーク鍋島 介護保険制度改正における介護事業者説明会

苦情・要望

区分	内容	件数
要望	訪問介護派遣時に、ヘルパーへ担当マネジャーを交代したい旨、相談を受ける。特にトラブルがあった訳ではないが、マネジャーが訪問時に自分が缶詰開けや靴下履きを依頼してもらえない・と言われてしていると報告を受ける。 利用者へ管理者から状況確認、上記の話をされる。すぐに交代が難しうであれば今年度内でもお願いしたいと要望あり。上司と検討行う、担当ケアマネの交代は現状は難しい事、また同じような状況が続くようであれば連絡して頂くことを利用者へお伝えする。過去にも数回ケアマネを交代され状況もあり、今回はお気持ちを傾聴共感し、今後の経過をみる事とする。	1件

平成29年度事例検討開催内容

月	日	検討内容
4	19	「ケアマネとして嫁に対してどのような言葉をかけて行けばいいのか。本人と嫁が安心した関係が継続するには」 要介護2の方で、長男とは関係が悪く、介護の協力なし。嫁は長男との間に挟まれており、また本人も家族の言う事を聞かない為、介護負担を感じている。ケアマネに相談の電話が来るがどのように言葉かけをしていいのだろうか。
5	10	「最近名前を呼んだだけでも興奮や立腹状態見られ、どのように対応をすればいいのかわからない。」 入苑者の事例。以前より興奮がひどくなり心療内科などを受診するが改善が見られない。暴言などもあり最近では名前を呼んだだけでも興奮が見られる。介護職員もどのように対応をしていいのかわからずいろんな事業所の協力を受けながら対応を行っている。
5	17	「訪問しても門前払いの状況。今後どのようにアプローチをしていけばいいのか。」 息子と2人暮らし。介護保険は申請しておらず、民生委員から連絡がある。訪問を行うも門前払いを受けている。サロン活動には積極的に参加をされている。

月	日	検討内容
6	14	「妻に対しての嫉妬がひどく、妻のストレスになっている。妻の負担を減らすには何かいい方法はないだろうか」 息子夫婦と6人暮らし。アルツハイマー型認知症で内服管理を行っている。夜になると同じ布団に寝ないと立腹をされひどい。利用者に対しても強い口調になり妻のストレスがひどく夜に眠れないと話される。
7	19	「内服管理が難しく悪性症候群を繰り返している。内服を管理する方法はないか。」 パーキンソン病の為、1日8回の内服を行っている。内服薬は自分で管理を行っている。服薬時間は携帯でアラームをセットし飲んでいく。夜間帯薬を飲むタイミングが合わず体が動かず一人で飲むことが出来ないことも多くなっている。夫に頼んでも薬の面倒まで見ていたら自分がつぶれてしまうと拒否。今後どのようにしていったらいいだろうか。
8	9	「認知症の進行予防の為にもデイサービスを利用して欲しいが、利用に到らない。どのようにして利用につなげる事が出来るか。」 以前デイサービスに1~2度来られたことがあるがその後利用はない。現在も車の運転をされており、家族が心配し運転をやめるように伝えれもやめられない。物忘れ、意欲の低下あり。本人に強く言うと怒ったりするため、家族も強く言う事が出来ない。
9	13	「認知症の方が自宅から一人で外出し、バスセンターで発見される。今後、同様の事がある可能性があり、リスクマネジメントとして何が出来るのか。」 家族が不在時に親戚が亡くなったからと一人でバスに乗り出て行かれる。その際お金などももっていなかったが料金を払われずにバスから降りられている。何度も自宅から出て行こうとされる事があっている。
9	20	「認知症の方が一人で自宅で過ごされているが、夜間トイレなどの場所もわからなくなっている。夜間このままで大丈夫だろうか。」 認知症がある方。同敷地内に息子家族が住んでいるが、息子夫婦の自宅に行くと本人混乱するため、現在本人宅で一人暮らし。本人寝室が2階にあるが、夜間に寝ぼけて階段から転倒をしないか心配。また、夜間トイレの場所がわからなくなりゴミ箱やベランダで排尿をされる事がある。息子家族が本人の自宅に泊りに行くと混乱をされた為、一緒に泊まることも出来ていない。
10	11	「孫がキーパーソンになっているが、動きが期待できない。今後の退院調整が不安があり、どうしていけばいいだろうか。」 ケアハウスに入居されている方。現在精神科病棟に入院中。ケアハウス入居の際は姪御さんなどが手続きを行われたが、孫が本人と養子縁組をしており、今後は主の介護者である孫と調整をしてほしいと言われる。孫に連絡を行うも電話には出られず連絡がとれない。孫も精神疾患を持たれており、今後どのように退院調整を行ったらよいらうか。
10	18	「妻と本人の関係をいかに保ち、妻の夫へのあきらめをすこしでも改善していくためにはどうしたらよいか」 アルツハイマー型認知症。昔から人の助言などは聞かれず拒否をされている。自分の思いのまま過ごされており、夜中1時から3時に起きて活動されている。畑で倒れていたり、バイクに乗り外出し戻れなくなったり、転倒をし救急搬送をされた経緯もある。デイサービスは拒否なく来られている。職員の指示にも耳を傾けられている。
11	8	「妻の負担を減らしたいが、本人が他のサービスを増やしてくれない。本人をどう説得するか。」 脊髄損傷の障害の方。65歳になり、障害者福祉法より介護保険に移行をされた方の事例。介護保険に移行をされてから高齢者の中に入りたくないという強い拒否があり、デイサービスなどの通い系のサービスの利用があていない。毎日24時間の介護に為、妻の負担が大きくなっている。
11	15	「自宅で過ごす時の排泄支援の方法がないか」 認知面の低下からトイレの場所がわからなくなりトイレではない場所で排泄をされたり、ズボンが下せずに衣類を濡らしたりされている為、毎日家族が仕事から帰ってから処理を行っている状況。家族が居る時は本人がトイレに立たれたら、介助を行っている。金銭面から介護保険は使わずに何か手立てはないだろうか。

月	日	検討内容
12	13	「現状の支援で良いのか？ほかに必要なことはないか？本人の思いを考えた支援は可能か。」 本人は今は一人居る生活は出来ないと分かっているが、いずれは家に帰りたと思われている。近親者はおらず主の介護者は甥の方がされている。現在ショートステイを利用しているが、自宅が老朽化しており、雑草なども生えている為家に帰れる状況ではない。しかし本人は家に帰りたという希望が強く、入所も拒否をされている。
12	20	「自立した自宅生活を続けるためにはどんな事が必要か。どんなアセスメントが必要か。」 要支援1。子宮がん摘出、乳がん切除、現在肺転移がある。その為、ホルモン治療を行っているが手足の痺れ、身体が急に動けなくなったり、高熱を出したりするなど日内変動がある。同居の娘も日中仕事をしており一人で居る時に倒れていないか心配をし、日中に数回電話を行っている。デイサービスなどの計画も行ったが入院により中止になっている。本人は今生活を続けていきたいと思っており、家族も本人のやりたことをさせていきたいと思っている。
1	11	「認知症状進まれており、興奮状態になると聞く耳もたず。下肢筋力低下あり1月に入り2度転倒。どのように関われば穏やかに過ごせるか。」 入所の方の事例。同居の二男が倒れ自宅で生活することが難しくなったため、入所をされる。次男も有料老人ホームに入所をしている。認知面の低下、短期記憶の低下があり、帰宅願望強く息子のご飯を作らないといけなといけなといけなと玄関先まで行かれる。普段は車椅子だが、1人で歩いて行かれる事もあり、転倒の危険性があるため目が離せない状況。
1	17	「認知症のお父様を介護される軽度知的の息子様の、介護負担の軽減と、他支援方法を検討」 本人の認知症の進行にて短期記憶が著しく低下し見当識障害、家事や金s年の管理、身の回りの事が出来なくなっている。息子は朝早くから夜まで仕事をしており食事の準備も難しい。今後息子の介護負担軽減のためにどのようにしたらいいか。
2	21	「若年性認知症(アルツハイマー型)の妻を夫が介護している夫の事例、負担軽減をどのようにすればよいか。」 夫に対しての拒否や暴言があり、またうつ病ももたれている。意思疎通も困難になっている。夫は周りの子供たちに負担を掛けたくないと現状は伝えているが協力は求めている。これからも夫婦で生活していきたいが負担が大きすぎてどうしてよいかかわからない。
3	14	「事業所への苦情が多く、事業所も困っており、サービスの受け入れが難しくなっている。ケアマネが間に挟まれ困っている事例。」 デイサービスを2か所利用しておられる。2か所共の小さなことなどの苦情を言われており、それを本人が直接言わずケアマネに依頼をされる。しかし、事業所のその都度対応をしてもらっており、無理な苦情なども言われ、事業所のそれ以上は難しいと言われている状況。現在ケアマネが間に挟まれ困っている。

平成29年度 地域包括支援センターとの連携

開催日	内容
7月3日 10月17日	虐待による事例、老夫婦世帯、夫に介護を受けているパーキンソン病の要介護者より「夫に首を絞められた」等の訴え聞き、実の姉妹から包括へ連絡が入る、ケアマネへ連絡、当日包括と話し合いを行い早急に対応を行う。①介護に対する夫の相談先の決定。②地元出身ではない夫は地域との交流が無いこと。③夫の交流の場の確保、精神的な負担軽減。を行い、④妻のショートステイの利用の検討の方向となる。 認知症の利用者の徘徊の事例、日中独居で、所持金もなく一人でバスにり戻れなくなる。地域包括へ情報提供を行い、地域での支援方法を検討。警察等、関係機関へ情報を提供し、地域の見守りネットワークを構築しモニタリングを行っている。。

2.3 訪問入浴事業報告

2.4 身体障がい者訪問入浴サービス事業報告

訪問入浴介護サービス桂寿苑

1. 平成 29 年度利用実績

(単位：人)

	身障訪問入浴 (延べ人数)	実人数	介護保険訪問入浴 (延べ人数)	実人数	各月合計
4月	0	0	4	1	4
5月	0	0	4	1	4
6月	0	0	5	1	5
7月	0	0	4	1	4
8月	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0
11月	0	0	0	0	0
12月	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0
合計	0	0	17	0	17

2. 事故及び苦情要望・・・なし

3. 反省と考察

毎週金曜日の実施。利用者が8月に永眠された為、それ以降の利用実績はなし。
引き続き、要望等があればケアマネジャーと連携して対応を検討する。

25 在宅介護支援センター事業報告

在宅介護支援センター桂寿苑

法人の各事業所の協力のもと、地域住民の総合相談窓口として地域と密着した下記の活動を行い、地域住民の福祉への理解や生きがい活動に取りくんだ。

1. 活動報告

① 歌声喫茶の実施

毎月第3火曜日に、きんりゅう事業所にて歌声喫茶を開催した。佐賀市全域より毎回多くの方が参加をされ、参加者の生きがいや健康維持へ繋がった。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
H29	70	66	72	64	60	56	45	63	58	61	中止	57	61人
前年度	60	65	71	58	52	54	57	57	57	72	79	48	60.8人

(延べ人数)

② 桂寿苑一座による認知症の啓発活動等

認知症の啓発や、高齢者の健康で豊かな生活づくりへの取り組みを行った。

開催月	開催内容	開催場所	演目
平成29年 9月18日	西千布長寿会	西千布公民館	歌声喫茶
平成29年11月17日	金立地区ふれあいの集い	金立公民館	悪質商法
平成29年12月12日	佐賀ビハーラの会	佐賀本願寺	歌声喫茶
平成30年 2月23日	桂寿苑一座定期公演	ケアハウスはがくれの郷	母からの手紙
平成30年 2月17日	金立健康講座	金立公民館	ふまねっと運動

③ あいあいcafé 開催

毎月第4日曜日にきんりゅうケアセンター桂寿苑デイセンターにてcafeを開催した。地域住民、民生委員等のお世話役の方や利用者及びその家族が参加され、個人の健康維持や地域住民同士のふれあいの場が提供できた。

開催月	参加人数	内容
4月	22人	あみ紐体操
5月	30人	お薬について知ろう(外部:管理薬剤師)
6月	23人	福祉用具について知ろう(外部:専門職)
7月	20人	夏の介護予防
8月	26人	夏バテ予防
9月	14人	自宅で出来る体操
10月	20人	この時期から注意する感染症について
11月	20人	食事の面から考える冷え症対策
12月	20人	クリスマス会
1月	25人	ふまねっと運動

2月	21人	口腔内ケアについて（外部：歯科衛生士）
3月	17人	棒体操
		平均参加者 21, 5人（前年度 18, 1人）

④ 江頭団地ふまねっと事業（江頭団地主催）

居宅支援課、通所介護課と共同し地域住民主体の介護予防活動への協力を行った。

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
H29	12	12	10	9	8	8	6	9	9	7	6	9	8.7人
前年度	15	10	11	10	10	11	8	8	9	9	10	8	9.9人

（延べ人数）

⑤ 講座開催（認知症サポーター養成講座、介護講座等）

佐賀県や佐賀市、地域住民、養成校からの依頼により認知症サポーター講座を開催し地域住民への認知症についての理解や啓発活動に取り組んだ。

開催月	養成人数	対象者
8月	140人	佐賀県庁 新規採用職員（2回）
10月	120人 36人	佐賀市市民公開講座 JA 婦人部（介護保険講座）
11月	50人 108人	佐賀県警察署 警察官 西九州大学学生
12月	8人	太陽生命保険員
1月	36人	佐賀県警察学校 学生
2月	24人 80人 19人	佐賀銀行行員 佐賀県立総合看護学院 学生（1年生、2年生） 生活介護支援サポーター
3月	9人	社会福祉法人凌友会新規採用者職員 他
計	630人	（内 認知症サポーター養成人数 594人 <前年710人>）

・生活介護支援サポーター養成講座

佐賀市より委託を受け、地域での生活支援を行う住民の育成を行った。

平成30年2月1日～16日 19名養成

・西九州大学 介護の魅力発表会（凌友会の地域貢献活動紹介を行った。）

⑥ 地域行事への参加

年間を通して、金立地区行事への参加や部会員としての登録を行い、積極的に地元の活動に取り組んだ。この活動は、地域密着型施設の住民理解へとつながった。

【参加行事】水路の泥土上げ・草刈り作業、空き缶・ゴミ拾い、自治会総会、金立まちづくり協議会福祉部会関係、福祉施設との交流協議会、金立町防災訓練

2. 反省と考察

苑独自の事業として、法人と協力し、地域ニーズに応じた活動を年間通して行うことができた。地域住民の福祉の理解やふれあいの場所の提供の提供が出来た。今後も地域の関係機関や地域住民の方と連携や情報共有しながら身近な地域課題に対する取り組みを充実させていく。